

県単道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務委託

(一) 山吹(停)線 下伊那郡高森町原城

# 発掘調査報告書

はらん じょう  
原 城 遺 跡  
はらん じょう あと  
原 城 跡

2012年(平成24年)3月

長野県飯田建設事務所

高森町教育委員会

県単道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務委託

(一) 山吹(停)線 下伊那郡高森町原城

# 発掘調査報告書

はらん じょう  
原 城 遺 跡  
はらん じょう あと  
原 城 跡

2012年(平成24年)3月

長野県飯田建設事務所

高森町教育委員会









1. 東側から原城遺跡・原城跡の全景 平成 21 年 10 月撮影



2. 西側から原城遺跡・原城跡の全景 平成 21 年 10 月撮影





1. 曲輪 2、堀切 1 の発掘調査（堀切 2 上空から曲輪 2、堀切 1、主郭を見る）平成 22 年 10 月撮影



2. 曲輪 2、堀切 1 の発掘調査（主郭上空から堀切 1、曲輪 2 を見る）平成 22 年 10 月撮影





1. 主郭の発掘調査（南側上空から）平成 23 年 7 月撮影



2. 主郭の発掘調査（西側上空から）平成 23 年 7 月撮影



## 例 言

- 1 本書は、長野県下伊那郡高森町山吹に所在する原城遺跡、原城城跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は県道山吹停車場線改築工事に伴う事前調査として、長野県飯田建設事務所からの委託事業として、高森町教育委員会が実施した。
- 3 発掘調査は平成 21 年から平成 23 年の 3 カ年にわたって実施し、平成 21 年 6 月 18 日～平成 22 年 1 月 6 日の第 1 次調査、平成 22 年 6 月 14 日～平成 23 年 1 月 27 日の 2 次調査、平成 23 年 5 月 6 日～平成 23 年 7 月 12 日までの 3 次調査の 3 回に分けて実施した。また、発掘調査終了後の整理・報告書作成については平成 23 年 12 月 1 日～平成 24 年 3 月 18 日まで実施した。
- 4 本書の執筆・編集は高森町教育委員会の松島高根が担当した。
- 5 本書に掲載した遺構写真および作業風景写真は松島高根が撮影した。
- 6 本書に掲載した空中写真は有限会社 M<sup>2</sup> コーポレーションに委託し撮影した。
- 7 本書で利用した地図は、国土地理院発行の地形図（「飯田」1:50,000、「下市田」・「伊那大島」1:25,000）、高森町全図（1:10,000）、高森町都市計画基本図（1:2,500）をもとに作成した。
- 8 本書で扱っている国土座標は、国土地理院の定める平面直角座標系第Ⅷ系の原点を基準としている。座標値は世界測地系を用いている。
- 9 本書に掲載した原城跡縄張り図は宮坂武男氏の原画を利用した。
- 10 出土遺物の実測図化、中近世陶磁器の鑑定は株式会社アルカに委託した。
- 11 発掘調査にあたって下記の組織、個人の方々のご助言・ご協力を賜った。ご芳名を記し、深く感謝申し上げます。  
山吹区、竜口地区、原城址愛護会、高森町史学会、山吹史学会、高森町役場建設課  
宮坂武男、木村昌之、寺沢義登、中平好美、中平晴雄、橋爪友二郎《順不同・敬称略》
- 12 本調査及び報告書作成に係る組織は第 1 章第 4 節に記した。
- 13 本調査に係る資料（遺物、写真、図面他の記録）は高森町教育委員会が管理し、高森町歴史民俗資料館に保管している。

## 凡 例

- 1 遺跡名称はアルファベット 3 文字又は 4 文字を用い下記のとおり略記号を使用した  
原城遺跡（はらんじょういせき） HRN  
原城跡（はらんじょうあと） HRNJ
- 2 遺構名称、トレンチ名について下記のとおり略号と番号を用いて表記した。番号は遺構確認順に付した。トレンチ番号は設定順に付した。  
堅穴 - SB、土坑 - SK、柱穴 - P、溝跡 - SD、道路跡 - SS、その他・不明 - SX  
トレンチ - T
- 3 基本土層、遺構埋土、遺構断面の土色は、『新版 標準土色帖』農林水産省農林水産技術会議事務局監修により土色記号、土色を表記した。

# 目 次

扉	
巻頭図版	1
例言	4
凡例	4
目次	5
<b>第1章 調査の経緯と経過</b>	<b>6</b>
第1節 埋蔵文化財保護協議	6
第2節 埋蔵文化財発掘調査委託契約	6
第3節 調査の経過	7
第4節 調査組織	12
<b>第2章 遺跡周辺の環境</b>	<b>13</b>
第1節 位置	13
第2節 地理的環境	16
第3節 歴史的環境	17
1 山吹地区の埋蔵文化財	17
2 原城跡の文献と研究史	18
<b>第3章 調査の結果</b>	<b>25</b>
第1節 測量・記録方法	25
第2節 調査方法	25
第3節 遺構と遺物	26
調査区配置図	27・28
原城跡地形測量図	29
調査区平面図	30
焼物土器類観察表	41
石製品・金属製品観察表	42
遺物実測図	43
<b>第4章 まとめ</b>	<b>48</b>
1 中世以前	48
2 中世	48
引用・参考文献	51
写真図版	52



## 第1章 調査の経緯と経過

### 第1節 埋蔵文化財保護協議

平成19年6月25日付19教文第165号により、長野県教育委員会教育長から平成19年度以降実施予定の公共事業に係る埋蔵文化財包蔵地及び史跡・名勝・天然記念物等の保護について関係機関に資料提出依頼があった。これに対し同年8月6日付19飯建第120号により長野県飯田建設事務所長から県単道路改築工事（一）山吹（停）線下伊那郡高森町原城地区ほか3事業の実施計画について回答がなされた。この計画に対し、高森町教育委員会教育長は当該事業が周知の埋蔵文化財「原城遺跡」、「原城跡」に係るため3者協議の意見を付して長野県教育委員会に進達した。同年12月12日、高森町中央公民館において、長野県教育委員会文化財・生涯学習課、長野県飯田建設事務所、高森町教育委員会事務局の各担当者による埋蔵文化財保護協議を実施した。協議の結果、当該事業が埋蔵文化財 原城遺跡 原城跡に該当することを確認し、計画の中止、変更が不可能なことから埋蔵文化財を記録保存とすることに決定し、発掘調査を高森町教育委員会が実施することが決定された。

平成21年2月20日付20飯建第254号により長野県飯田建設事務所長から「土木工事等のための埋蔵文化財発掘の通知」（文化財保護法第94条）が高森町教育委員会に提出され、これを受け、高森町教育委員会教育長は同年3月26日付け20高教第155号により発掘調査の意見を付して長野県教育委員会教育長に進達した。同年3月31日付20教文第9-278号により長野県教育委員会教育長から飯田建設事務所長に発掘調査実施の通知がされた。

### 第2節 埋蔵文化財発掘調査委託契約

平成21年度県単道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査業務委託（一）山吹（停）線 下伊那郡高森町 原城を平成21年5月1日付けで飯田建設事務所長 城之内高志と高森町長 熊谷元尋の間で締結した。

平成22年度県単道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査業務（以下略）を平成22年5月21日付けで飯田建設事務所長 三井宏人と高森町長 熊谷元尋の間で締結した。

同変更契約を平成23年1月20日付けで締結した。

平成22年度県単道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査業務委託（略）（2）を平成23年3月30日付けで締結した。

同変更委託契約を平成23年9月15日付けで締結した。

委託契約の関る詳細は別表に示すとおりである。

契約年度	契約日	期間	委託料
平成 21 年度	平成 21 年 5 月 1 日	平成 21 年 5 月 1 日～平成 22 年 3 月 19 日	8,600,000 円
平成 22 年度	平成 22 年 5 月 22 日	平成 22 年 5 月 22 日～平成 23 年 3 月 18 日	7,990,000 円
同 変更	平成 23 年 1 月 20 日	同上	10,370,000 円
平成 22 年度 (2)	平成 23 年 3 月 30 日	平成 23 年 3 月 30 日～平成 24 年 3 月 20 日	5,150,000 円
同 変更	平成 23 年 9 月 15 日	同上	5,650,000 円

### 第 3 節 調査の経過

発掘調査の経過は以下の発掘調査日誌（抄）による。

#### 発掘調査日誌（抄）

##### 第 1 次調査

##### 平成 21 年

- 6 月 18 日 調査地区設定、草刈り作業、看板等設置
- 19 日 第 I 調査区表土掘削（重機）、残土搬出先打合せ
- 22 日 同上、機材搬入、仮設ハウス・テント設営
- 23 日 同上、第 I 調査区遺構検出作業開始
- 24 日 雨天休止
- 25 日 第 I 調査区遺構検出
- 26 日 同上、飯田建設事務所へ基準点データ入手
- 29 日 同上
- 30 日 同上、遺構掘下げ開始、測量打合せ
- 7 月 1 日 遺構掘下げ、基準点測量及びグリッド杭打設（委託）
- 2 日 雨天休止、整理作業
- 3 日 遺構掘下げ
- 6 日 雨天休止
- 7 日 遺構掘下げ
- 13 日 第 II - 1 調査区表土掘削
- 14 日 同上、第 II - 2 調査区表土掘削（重機）  
土層観察ピット断面実測
- 15 日 第 II - 2 調査区表土掘削（重機）、遺構検出作業
- 16 日 第 II - 2 調査区遺構検出作業、遺構断面実測
- 21 日 遺構断面実測
- 23 日 同上



- 8月12日 第Ⅰ区道路跡写真測量（委託）  
 17日 第Ⅱ調査区遺構・地形測量（委託）  
 18日 同上  
 25日 第Ⅳ-1調査区表土掘削（重機）、遺構検出作業  
 第Ⅳ-5調査区表土掘削・石積解体（重機）  
 第Ⅲ調査区遺構掘下げ  
 第Ⅲ・Ⅳ調査区グリッド杭設置（委託）  
 26日 第Ⅲ区遺構断面実測、  
 第Ⅳ-4調査区表土掘削（重機）、水路仮設工事  
 27日 同上 一時休止  
 第Ⅳ-3調査区溝跡掘下げ、Ⅳ-4調査区仮設防護フェンス設置  
 28日 遺構断面実測  
 9月 1日 第Ⅳ-3調査区溝跡・堅穴掘下げ 遺物（銅錘、硯等）出土  
 2日 同上 遺物（鉄釉皿等）出土  
 4日 第Ⅳ-1調査区溝跡検出・掘下げ  
 第Ⅳ-3調査区遺構精査  
 10日 第Ⅳ-1調査区遺構断面実測  
 第Ⅰ調査区道路跡トレンチ掘削  
 第Ⅳ-4調査区堀切2掘下げ開始  
 11日 遺構断面実測  
 18日 第Ⅳ-5調査区堀切2掘下げ（重機使用）、堀肩・堀底一部確認する  
 24日 土層観察ピット断面実測  
 10月 5日 第Ⅳ-3調査区清掃・写真撮影  
 9日 第Ⅳ-5調査区堀切2泥出し・清掃  
 14日 第Ⅳ-4調査区堀切2泥出し・清掃  
 15日 第Ⅳ-4・5調査区測量写真撮影（委託）  
 19日 第Ⅳ-3調査区溝跡・堅穴礫取外し、底部精査  
 20日 同上  
 21日 第Ⅳ-1調査区遺物取上げ  
 第Ⅳ-1・2調査区遺構測量（委託）

平成22年

- 1月 6日 第Ⅰ調査区道路跡補足調査

第2次調査

平成22年

- 6月 7日 地元関係機関・関係者に発掘調査の通知

- 1 4 日 主郭部の山林刈払い作業開始（業務委託）
- 2 5 日 山林刈払い作業終了する
- 3 0 日 重機等借上契約締結  
調査区地形測量開始（業務委託）
- 7 月 5 日 地形測量終了
- 7 日 調査前写真撮影
- 8 日 中学生職場体験受入れ。曲輪 2 のトレンチ調査
- 9 月 2 1 日 調査機材等搬入、調査区草刈り
- 2 2 日 草刈り、主郭トレンチ（T 1、T 2）設定・掘削開始
- 2 4 日 主郭 T 2 から天目茶碗底部破片出土する  
工事立会い（No.98 付近 交差点舗装工事）
- 2 7 日 曲輪 2 トレンチ延長掘削  
堀切 1 重機掘削開始
- 2 9 日 主郭草刈り
- 3 0 日 工事説明会（飯田建設事務所、高森町役場建設課、高森町教委、高森町文化財調査委員会、高森町史学会、山吹史学会、原城跡愛護会）  
出席者計 3 2 名  
続いて、発掘調査状況説明
- 1 0 月 1 日 主郭トレンチ（T 3）設定掘削開始
- 3 日 堀切 1 重機掘削終了
- 4 日 曲輪 2 重機掘削開始
- 7 日 曲輪 2 遺構検出作業
- 1 2 日 台風大雨による崩落土処理  
曲輪 2 精査
- 1 3 日 堀切 1 最深部掘下げ  
曲輪 2 写真撮影
- 1 4 日 堀切 1 中間面精査、配石
- 1 9 日 堀切 1 底部重機掘削、精査。堀底通路を検出する。  
ラジヘリ空中写真撮影
- 2 4 日 現地見学会（参加者 40 名）
- 2 6 日 堀切 1 中間面配石取り上げ、観察
- 1 1 月 3 日 柿の里ウォーキング大会参加者見学
- 1 8 日 工事立会い（No.101～102 間 既設接続排水工）
- 3 0 日 工事立会い（No.100L 付近 中平幹男宅敷地石積工）
- 1 2 月 9 日 工事立会い（No.100 付近 横断排水工事）

平成22年

- 1月21日 刈払い等業務開始
- 23日 刈払い等業務終了
- 24日 主郭北側及び道路西側地形測量開始
- 26日 地形測量終了
- 27日 主郭北側写真撮影

第3次調査

平成23年

- 5月 6日 地元関係機関・関係者に発掘調査の通知
- 同日 機械掘削打合せ、調査前写真撮影
- 7日 搬出路設営（重機、ダンプトラック）
- 9日 機械作業路整備、道路側土砂流出防止シート張り  
主郭1斜面表土掘削（順次東側から）
- 10日 主郭斜面表土掘削
- 11日～13日（金）降雨により作業中止
- 16日 主郭斜面表土掘削
- 17日 主郭斜面表土掘削  
主郭平坦部表土掘削
- 18日 残土搬出（豊丘村指定場所）
- 19日 残土搬出  
主郭斜面表土掘削
- 20日 主郭南側斜面下部表土掘削
- 6月 3日 グリッド杭設置（委託）
- 9日 作業員導入  
検出作業開始
- 10日 土取坑、テラス状遺構掘下げ
- 13日 土取坑1・2掘下げ
- 14日 土取坑1掘下げ
- 15日 土取坑1・3掘下げ
- 16日 土取坑4掘下げ  
主郭内第3～第4ベルト間検出作業  
縄文土器破片、黒曜石剥片出土、縄文遺跡として確認する。
- 17日 曲輪内第4ベルト以北検出作業  
縄文時代石器、中世瀬戸美濃灰釉平碗、平鉢、天目茶碗破片出土。
- 20日 曲輪内第4ベルト北・南側検出作業



- 中世瀬戸美濃、内耳土器破片出土
- 21日 曲輪内第4ベルト北・南検出作業
- 22日 同上  
工事説明会（地元説明会）
- 24日 曲輪内第3ベルト南側検出作業  
主郭南側斜面削り落とし
- 26日 原城址愛護会、上平地区育成会、竜口地区育成会合同見学会  
大人25名、子ども11名参加 発掘箇所及び城跡各所見学説明
- 27日 主郭内検出作業、主郭南側斜面削り落とし
- 28日 主郭南側～南西側斜面削り落とし 土取りらしい落ち込み確認  
中世瀬戸美濃陶器、内耳土器片出土
- 29日 主郭南西側斜面削り落とし
- 30日 同上
- 7月 1日 主郭南西側斜面削り落とし 土取坑4掘下げ  
高森町史学会木村会長来場
- 4日 土取坑3、4掘下げ
- 5日 残土搬出、堀切1重機掘削  
高森中学校職場体験2名参加（7日まで）
- 6日 現道擁壁裏、堀切1重機掘削  
主郭竪穴（SB1）掘下げ、主郭南斜面切岸検出
- 7日 堀切1重機掘削、残土搬出  
堀切1、前年度の調査部に達する  
土取坑掘下げ
- 8日 竪穴（SB1）掘下げ、完掘  
主郭南側斜面切岸検完掘
- 9日 主郭内遺構掘下げ SK1～SK3
- 11日 曲輪内遺物取り上げ  
堀切1重機掘削調整、検出  
ラジコンヘリ空中写真撮影（委託）  
堀切1断面セクション清掃、土層観察、土層線記入  
仮設撤収
- 12日 終了写真撮影  
堀切1断面セクション補測  
現場明け渡し、道路工事着手する。

## 第4節 調査組織

### 1 事務局

教育長	光沢 郁夫
事務局長	松村 和憲
社会教育係長	多田井 素 (平成21年度)
	寺沢 正寿 (平成22・23年度)
社会教育係	松島 高根

### 2 調査

調査主任	松島 高根 (高森町教育委員会)
発掘作業員	小池 義人      酒井 好則      菅野 賢治
	中塚 薫則      松下 梅治      宮沢 義孝
整理作業員	平      サク

### 3 指導

長野県教育委員会事務局 文化財・生涯学習課

## 第2章 遺跡周辺の環境

### 第1節 位置

原城遺跡、原城跡は長野県下伊那郡高森町に所在する

高森町は長野県の南部（南信州）に位置し、飯田市、松川町、豊丘村、喬木村に接する。高森町は合併前の旧村に依拠する市田地区と山吹地区に別れる。さらに山吹地区は近世村に依拠する山吹山吹上地区、山吹中地区、下平地区（以上山吹村、3地区を合わせ山吹大耕地という。）、駒場地区、新田地区（以上旧駒場村又は北駒場村）、上平地区（旧上平村）、竜口地区（旧竜口村）の7地区に分かれる。

竜口地区はかつての大字に対応する竜口、小沼、原城地籍に分かれる。原城遺跡、原城跡は原城地籍に位置する。原城遺跡の名称は単純に地籍名を冠したものであるが、原城跡は、「原」の城という意味と捉えられ、城の名が先に存在し、後に城名をとって地籍名になったといえる。



第1図 豊丘村上空より見た高森町の全景





第2図 位置図 (1/50,000)





第3図 原城跡周辺 航空写真



## 第2節 地理的環境

高森町は伊那山脈と木曾山脈に挟まれた伊那谷の南部にあり、諏訪湖に源を発し、伊那谷を南流し、遠州灘に注ぐ天竜川の右岸に位置する。通称、天竜川を挟んで右岸を竜西（りゅうさい）といい、左岸を竜東（りゅうとう）という。したがって高森町は竜西となる。

伊那谷の地質は花崗岩や変成岩からなる領家帯に属する。伊那山脈と赤石山脈の間に中央構造線が走り、赤石山脈は東側へ向かって三波川帯、秩父帯、四万十帯となり糸魚川―静岡構造線に達する。伊那谷の地形は赤石・木曾両山脈の構造運動によって形成されたもので、地殻運動による両山脈の上昇によりその間があたかも谷のように落ち込んだ部分が伊那盆地であり通称伊那谷と呼ばれる。伊那谷を含む赤石、木曾山脈は日本列島でも隆起量が最大の地域となっている。現在も上昇を続ける両山脈からの礫の供給により、伊那谷内部は厚く礫層に覆われ、今なお扇状地の形成が続くまさに生きている大地である。

竜西地区は主に木曾山脈側から流下する支流によって礫は供給された複合扇状地を形成している。竜西地区のうち、高森町が属する下伊那地域では新旧の扇状地面が木曾山脈の山麓断層帯や伊那谷中央断層帯による逆断層運動による分断、支流河川による侵食・堆積や天竜川本流の側方侵食による段丘地形等、複雑な地形構成を示している。

高森町周辺の扇状地、段丘面は高位・中位・低位又は古期・中期・新期に区分される。また、天竜川の流れる最も低い面は氾濫原となる。

山吹地区の地形区分は、天竜川から木曾山脈に向って、氾濫原、低位段丘Ⅱ、低位段丘Ⅰ、中位段丘、新期扇状地となり、低位段丘Ⅰ面と中位段丘を境を見晴山断層が通り断層崖を形成している。原城遺跡・原城跡は低位段丘Ⅰ面上に展開する。低位段丘Ⅰを形成する礫は上位で木曾山脈側からの花崗岩礫が主体であるが、下位では伊那層礫となる。低位段丘ⅠとⅡの区分は新期テフラに被覆されるかどうかであり、低位段丘Ⅰは新期テフラに被覆される。本調査において、テフラの堆積状況については基本土層、各遺構の断面観察により確認されている。

原城遺跡、原城跡は低位段丘Ⅰに地形区分される、上平段丘の東部の所在する。上平段丘は便宜的に使用する名称であるが其の範囲は明確に示される。天竜川に面する東側から南東側は手低位段丘Ⅱを画する段丘崖、北側から北東側は大沢川の侵食地形に、南西側は寺沢川の侵食谷より画される、西側は中位段丘との境界をなす見晴山断層の断層崖により画される。木曾山脈側から東方向に向けて流れ下った大沢川は、原城跡付近で流路方向南東方向に変える。この屈曲部にあたる上平段丘の端部を選んで原城跡は構築されている。





## 2 原城跡の文献と研究史

原城跡について初めて報告されたのは 昭和 16 年 10 月長野県発行の『史蹟名勝天然記念物調査報告第二十三輯』掲載の「松岡城址」による市村威人氏の調査報告である。

### 原の城

原の城は伊那電気鉄道線山吹駅より北に登ること七町、山吹・大島両村境を流る、大沢川の左岸※台地上にある小城で、地字を本城といふ。松岡の家臣龍ノ口氏の居城である。本丸は谷に望める断崖部にあつて東西四十五間、南北二十間の平場、今梨畑となっている。二の丸はその西にあつて一段低く、北部は山林、南部は畑及び人家である。二の丸の西方は上平の平坦地となる。

本丸・二の丸の間に壕あり、これより分岐して本丸の西崖に穿たれた堀切もある。其の他、二の丸の北・西の両面を囲む整壕も残存するが、その南部は埋め立てられて宅地となっている。二の丸の南方にも曲輪があつて壕を繞らしてゐたと傳へられるが現在その形跡を認めることができない。

※右岸の誤り

次に昭和 47 年 高森町史編纂委員会編、高森町発行の『高森町史 上巻』第 11 章松岡城 第 5 節 属城の項で原ノ城を取上げている。

「この城は松岡氏所領の最北部の固めとして、その家臣たる竜口氏の居たところで、溪谷を隔てて、真近に大島郷を望む。すぐ東北の対岸には名子の「城」という砦跡が、当城と同一高度に突き出ている」とし大沢川を挟んだ名子領との関係に言及している。城跡の記述内容は先の市村氏の調査報告そのままである。

平成 10 年、宮坂武男氏は現地踏査により縄張り図を作成している。遺構に関し、主郭について横堀、縦堀を指摘している。二の丸について、湾曲した短冊形の曲輪とし、北端に枳形の存在を指摘している。また東斜面の横堀と 2 条の縦堀を指摘している。

さらに「城の造りからして、東へ備えたもので、対岸から見れば仲々に重厚に見え、相当効果があり、圧力となつたであろう。」と所見をあらわし、大沢川を挟んだ名子側への備えを重視していることを示している。

## 3 竜口氏について

市村威人氏は前述の「松岡城址」の支城及び属城の項において、原の城について「松岡の家臣龍ノ口氏の居城」としている。

『高森町史上巻』では、「松岡氏所領の最北部の固めとして、その家臣たる竜口氏の居たところ」とある。

『大島嫡流家伝記』では龍口氏について次のように記述している。

「天正十三年八月信州上田城主真田安房守昌幸上州沼田ノ知行所出入二付云々



伊那将士エモ家康公より閏八月廻文を賜ハリ、早々小県エ出陣致候様ニト御下知ニ依テ、諸将小笠原掃部太夫、松岡右衛門左、下条牛千代、大島新助等出陣の用意ス、新助陣代トシテ大島丹波、大島太郎左衛門尉、其他福与因幡、小木兵左衛門、下平三郎左衛門、矢沢豊前、竹村次郎左衛門、荒井隠岐、宮ヶ瀬東右衛門、名子子八郎、辰ノ口三平、片桐八郎左衛門、岩崎日向、林治兵衛、唐沢次郎右衛門、等小県へ出陣シ云々」

辰ノ口三平が龍口氏と考えられる

『高森町史上巻』竜口氏の項

竜口氏

応永年間に山吹竜口ノ原ノ城に竜口藤三郎が居住し、松岡氏の配下に属していた。原ノ城は山吹・大島の境をなす大沢川（境の沢）の右岸台地上にある城砦で、松岡領最北部の固めとして、その部将たる竜口氏が、谷を隔てた大島郷の名子・大島両氏などの監視と警備に当たっていた。

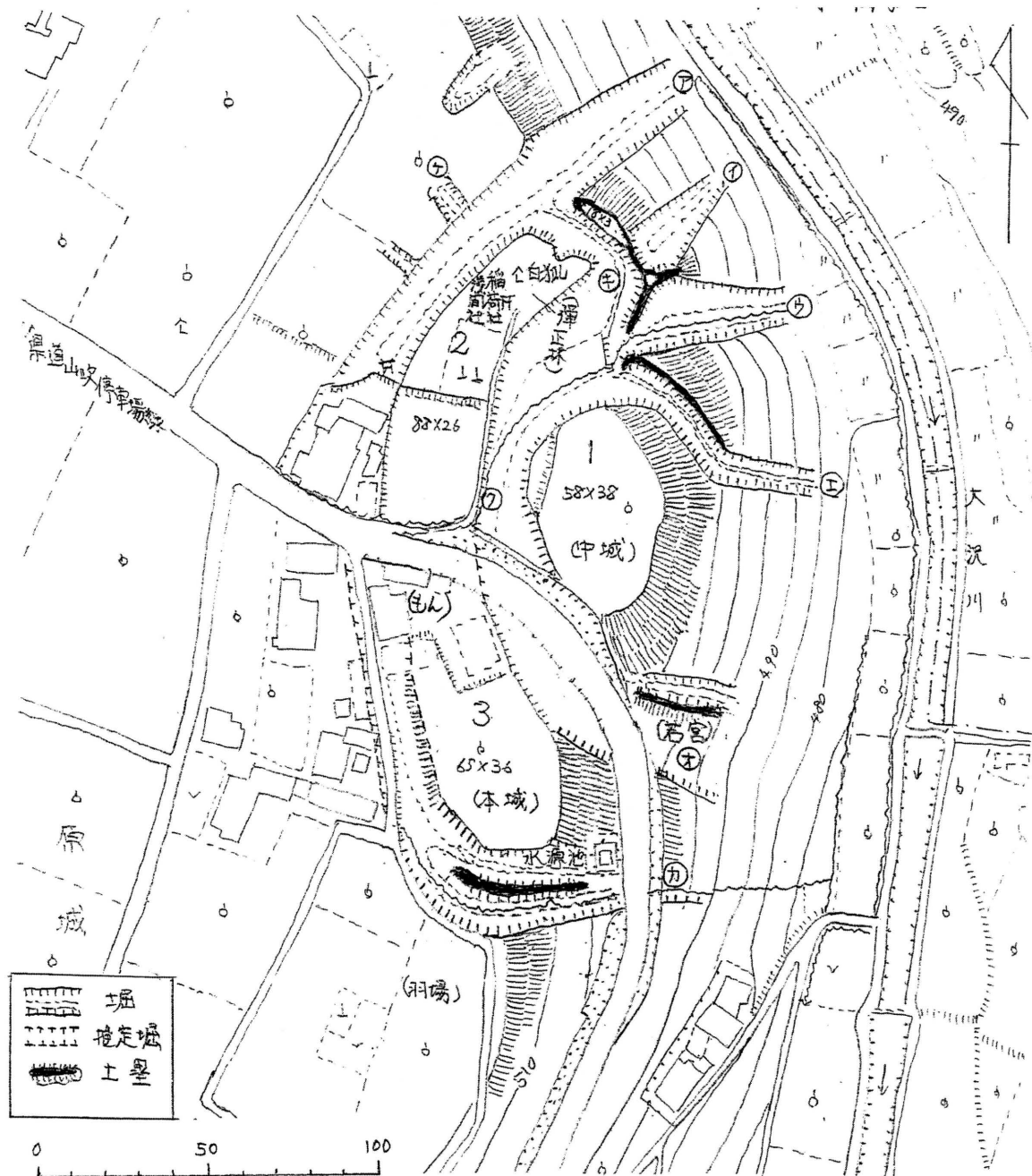
応永七年（1400）の大塔合戦には、松岡氏と共に出兵して戦った。『大島嫡流家伝記』に、この時出勤した伊那郡諸将の名が見えているが、その中に辰ノ口次郎とあるのが、この原ノ城主竜口氏のことと思われる。（大島村誌による）竜口藤三郎の後は、豊後守、新八郎、紋四郎と継承した。『南信伊那史料』には、竜口氏は紋四郎に至り、永禄二年（1559）逆意を企て、婦妻に殺戮せられて、憐むべし草創以来百六十年にして断滅するに至れりと記されている。

『伊那温知集』

龍ノ口 古高四百十石四斗三升三合二勺 今高四百七十石余 應永年中市田松岡家臣龍口籐三郎領之

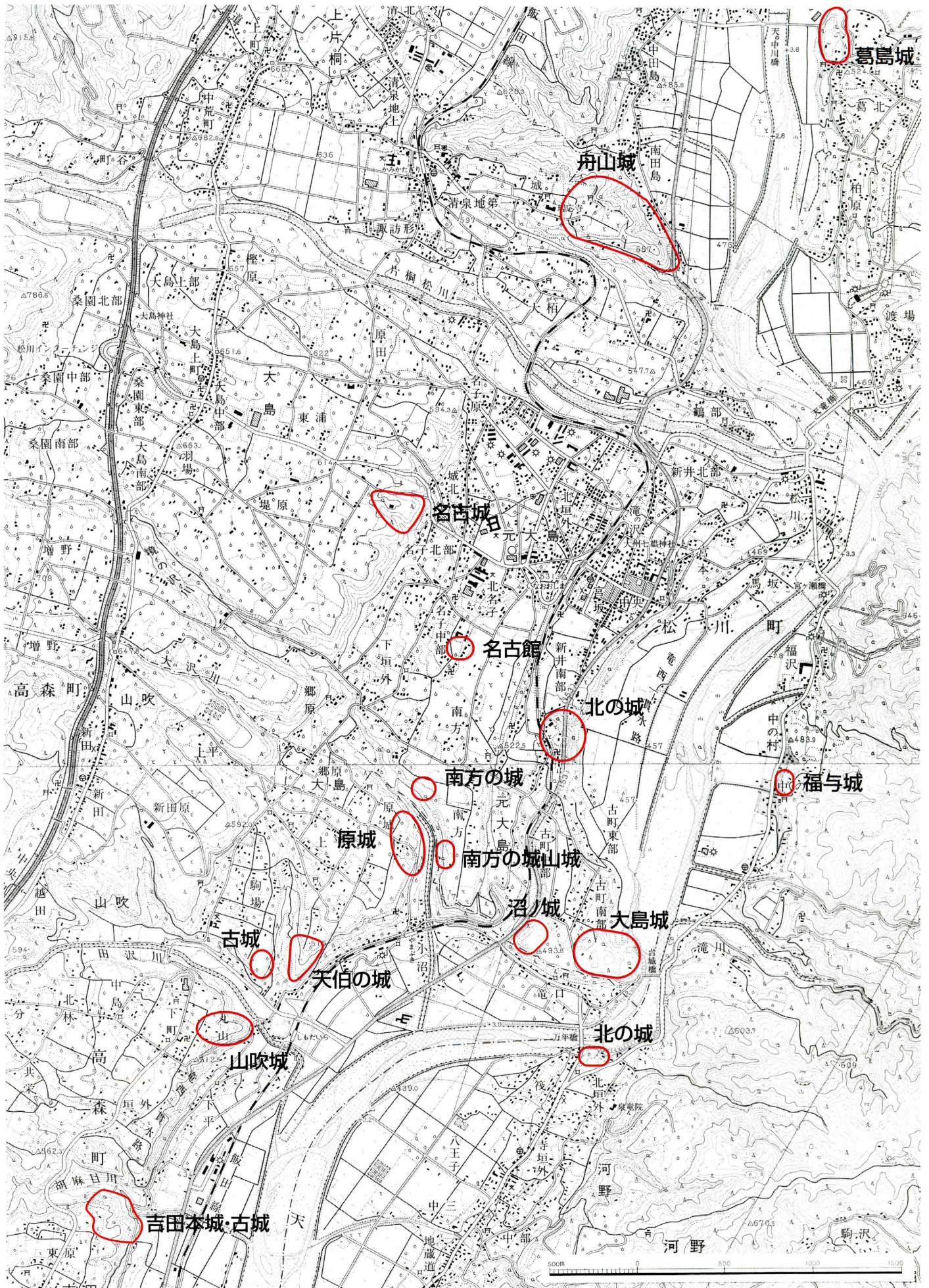
『松岡城史』

「松岡の八将と称せしは松岡、田中、牛牧、今牧、新井、山吹、龍口、吉村にして牛牧吉田山吹地方に散在して居を構へたり」



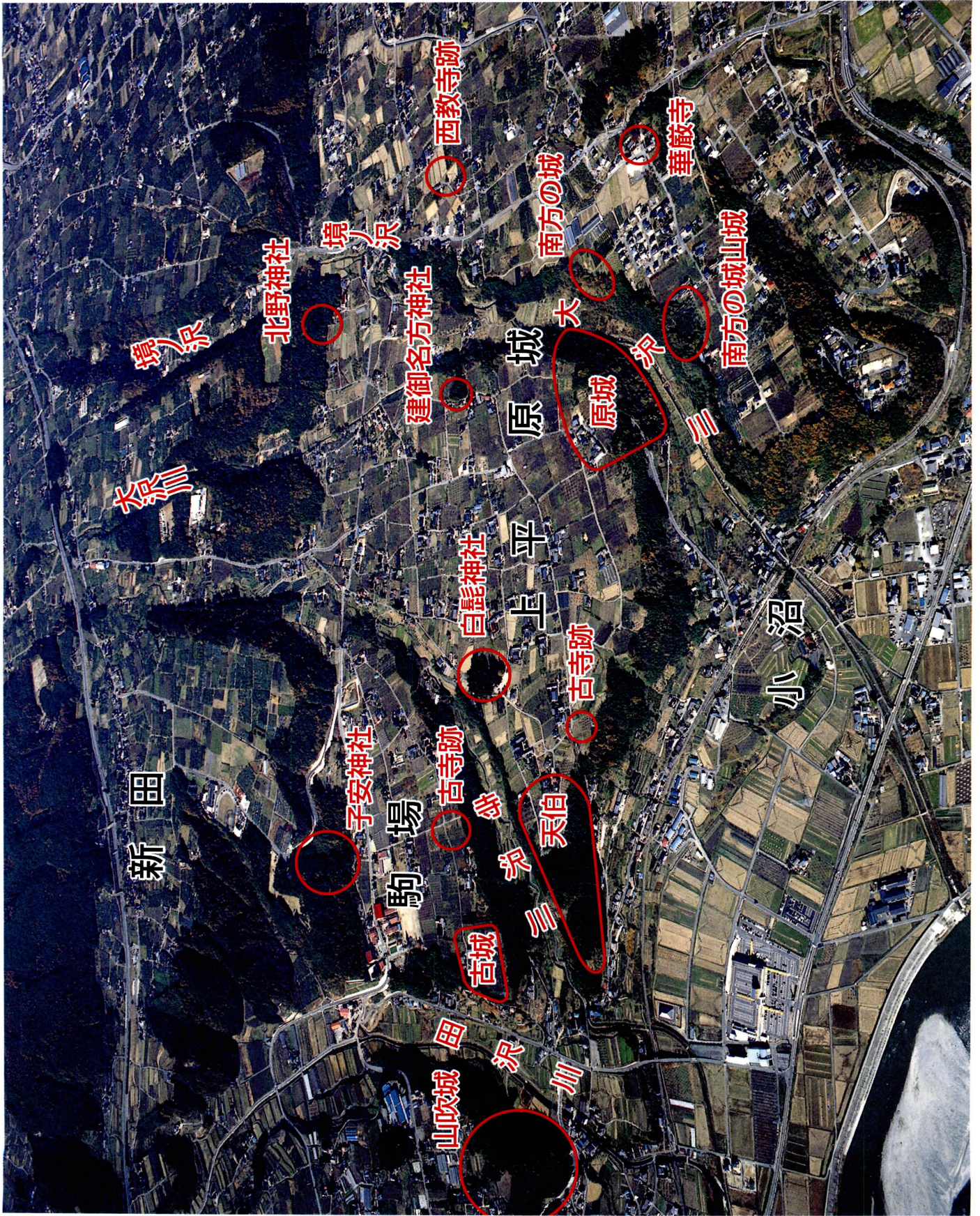
第5図 原城跡縄張図・鳥瞰図





第6図 原城跡周辺の中世城館跡・分布 (1/25,000)





第7図 山吹地区、元大島地南部の城跡 寺・社の分布

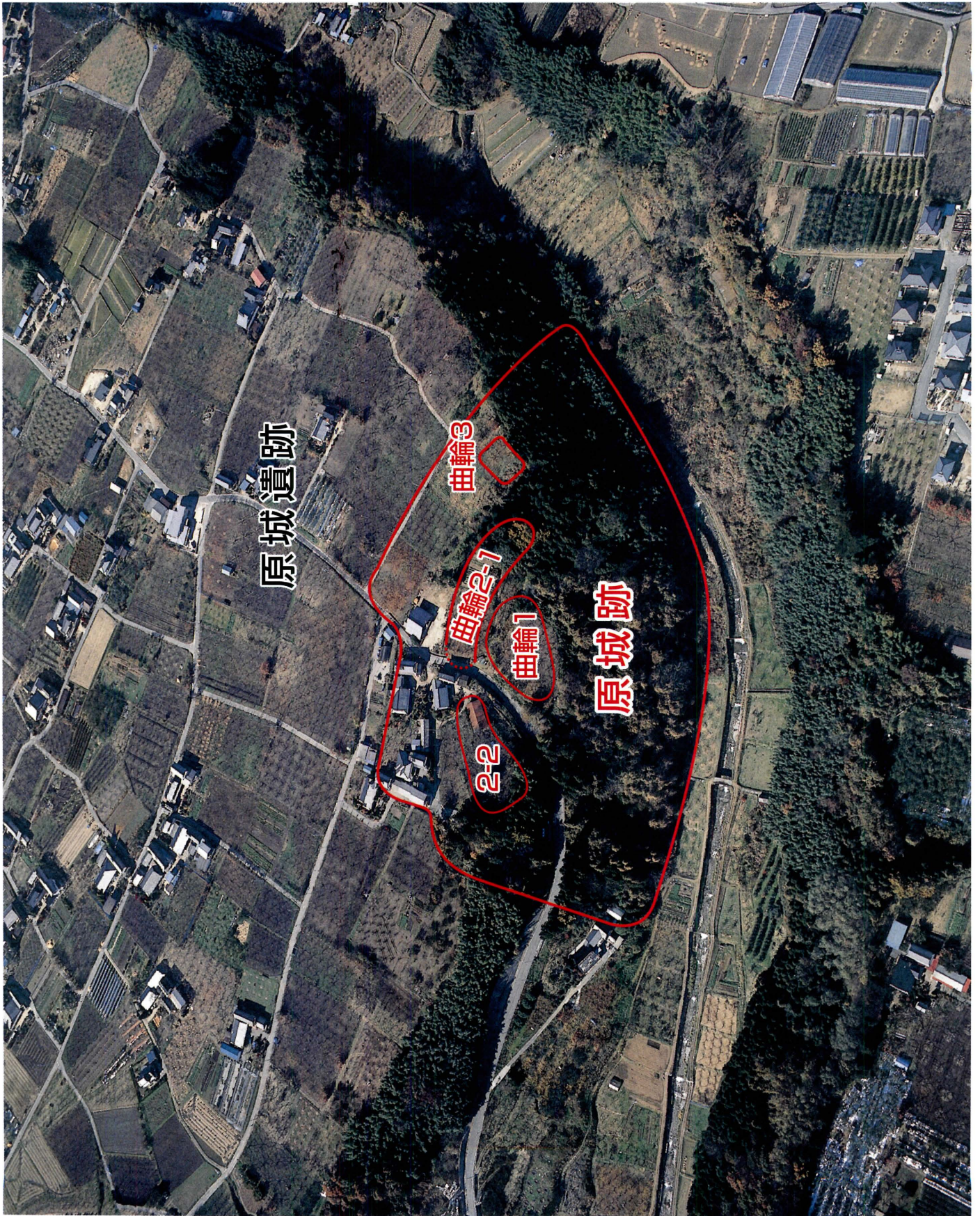




第8図 原城周辺の中世城館跡

- |             |              |
|-------------|--------------|
| 1. 原城       | 龍口氏          |
| 2. 名古屋      | } 名古屋氏       |
| 3. 南方の城     |              |
| 4. 南方の城山城   | } 大島氏        |
| 5. 北ノ城      |              |
| 6. 沼ノ城      | } ※大島城は後に武田氏 |
| 7. 大島城 (台城) |              |





第9図 東方上空から見た原城跡、原城遺跡



## 第3章 調査の結果

### 第1節 測量・記録方法

**基準点** 本調査の測量作業においては新たな基準点は設けず、下記の既設基準点を使用した。なお座標値は世界測地系である。

点名	X座標	Y座標	標高
6-1	-46128.229	-54156.806	519.539
6-2	-46155.663	-54126.691	517.705
H-1	-46097.963	-54200.585	520.473
H-2	-46074.113	-54242.711	521.306
H-3	-46055.290	-54274.029	522.417

**遺跡記号** 現場での記録、整理作業の便宜を図るため遺跡の名称「原城遺跡」をアルファベット3文字を用いて「HRN」、「原城跡」を「HRNJ」と略号化した。

**調査区** 調査区の設定は実際の城跡遺構に則し、原城跡縄張図における曲輪名、堀名を調査区名とした。

**グリッド** 発掘及び遺物取上げは基本的にグリッド法によりおこない、その設定には公共座標を用いた。大グリッドは国土基本図により100m四方のメッシュを組み、さらに2m四方のメッシュに分割した小グリッドとした。

遺物の取り上げは遺構に属するものは遺構毎に、その他のものはグリッド毎に土層名を付して取り上げた。

**遺構記号** 遺構には以下の略記号を用いた。竪穴住居跡・竪穴—SB、溝—SB、土坑—SK、不明遺構・その他—SX

**図面作成** 各調査区の全体図は1/100で、遺構図は1/10または1/20で、土層断面図は1/20または1/40で作成した。

**測量業務委託** 調査実施にあたり基準点測量、地形測量、単点測量、遺構測量、ラジコンヘリコプター計測・景観撮影、地上計測撮影、写真図化を有限会社M<sup>2</sup>クリエイションに委託した。

**写真記録** 調査区全体写真は6×7判中型一眼レフカメラを用いカラーポジフィルム、白黒フィルムにより撮影した。個別の遺構写真、部分写真は35mm判一眼レフカメラを用いカラーポジフィルム、白黒フィルムにより撮影した。上記及び調査進行に伴うスナップ写真等はデジタル一眼レフカメラにより撮影した。

### 第2節 調査方法

**トレンチ調査** 全面的な掘削に先立ってトレンチを設定し土層観察をおこなうことにより、造成面、地山深度、遺物の出土状況等を検討し検出面（検出深度）を決定した。堀1

及び主郭部は、主郭外周に放射状のトレンチを設定した。内1本（T-1）は堀1に直交し主郭と通るラインに設定し、基本土層の観察、調査進行計画の参考とした。堀1の肩部の把握について特に留意し、堀幅の把握に努めた。

**重機掘削** トレンチ調査により決定した検出面までの全面的な掘削は、調査期間短縮のためバックホーを用いて掘削した。掘削残土は調査区内に仮置場が設置できないためダンプカーを用い場外に搬出した。

**遺構検出** 重機掘削面以下はジョレン、スコップ等人力による遺構検出をおこなった。

**遺構掘下げ** 検出した遺構は、輪郭、切り合い関係を確認した後、原則として新しい遺構から古い遺構の順に掘下げをおこなった。掘下げには兵式スコップ、移植ゴテ等を用いた。ただし、堀部の掘下げにおいては遺構の規模が大きいためスコップも用いた部分がある。

### 第3節 遺構と遺物

#### 遺構の概要

##### 原城遺跡

第I調査区 道路跡（近世以降）×1、不明遺構（近世以降）×4、組合水道（現代）

第II調査区 土坑（縄文）×1、溝跡（近世以降）×1、道路跡（近世以降）×1  
不明遺構（近世以降）×2

第III調査区 土坑（時期不明）×2、溝跡（近世以降）×1

第IV-1調査区 土坑（近世）×1、溝跡（近世以降）×1  
格子状溝群（近世以降）×1

第IV-2調査区 遺構なし

第IV-3調査区 堅穴跡（中世）×1、溝跡（近世）×1

##### 原城跡

第IV-4調査区 堀切（中世）×1  
柱穴（中世）×1

第IV-5調査区 堀切（中世）×1

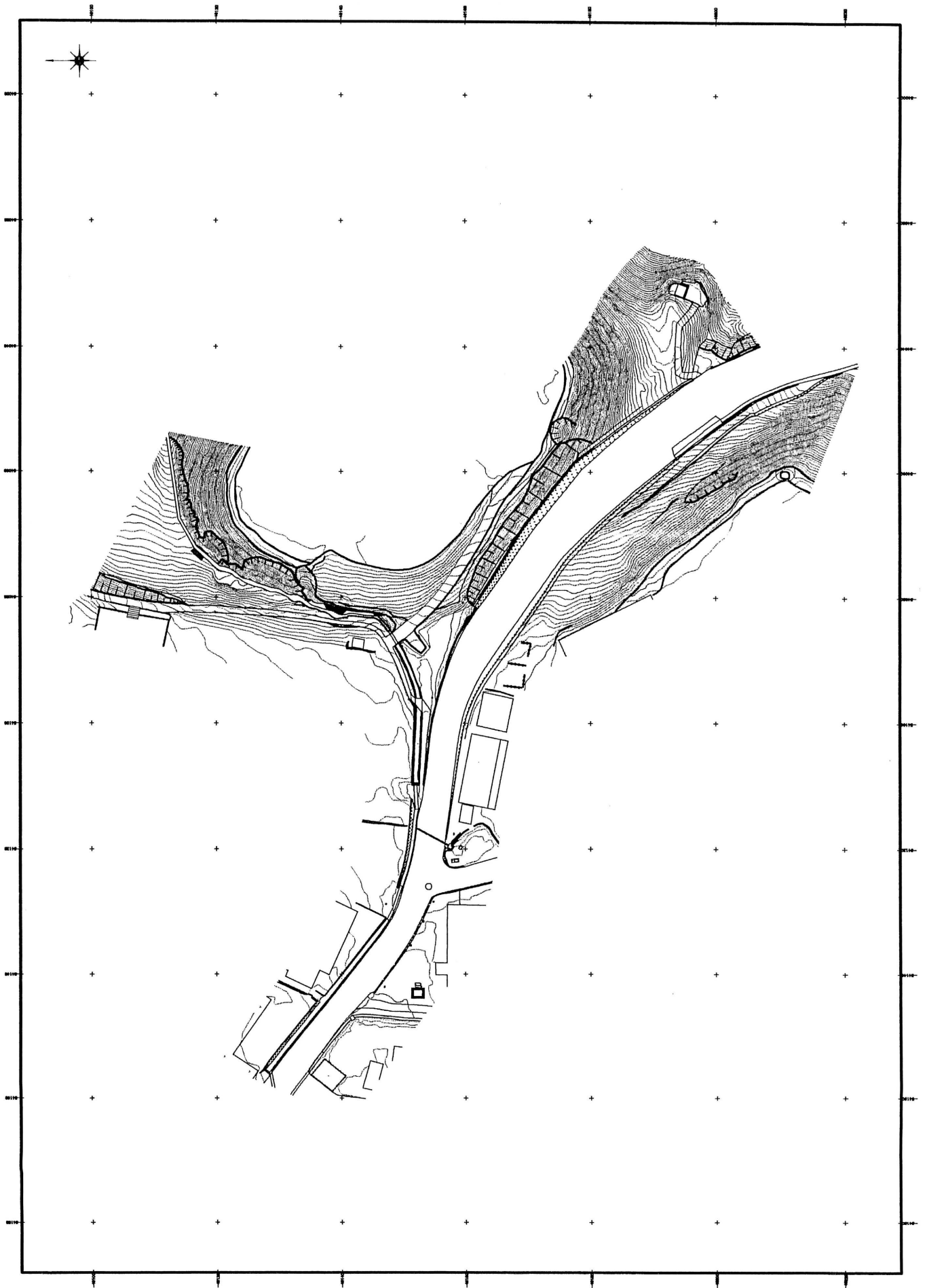
曲輪2調査区 土塁痕跡（中世）×1

堀切1調査区 土橋状遺構×1、通路跡×1、堀内造成面×3、土坑  
以上堀切1の付帯施設、時期はすべて中世

曲輪1調査区 堅穴跡（中世以降）×1  
土坑（中世）×4  
溝跡（中世）×1  
通路跡（中世）×1  
切岸（中世）  
平坦面（中世以降）×2  
土採掘坑（近代）×5

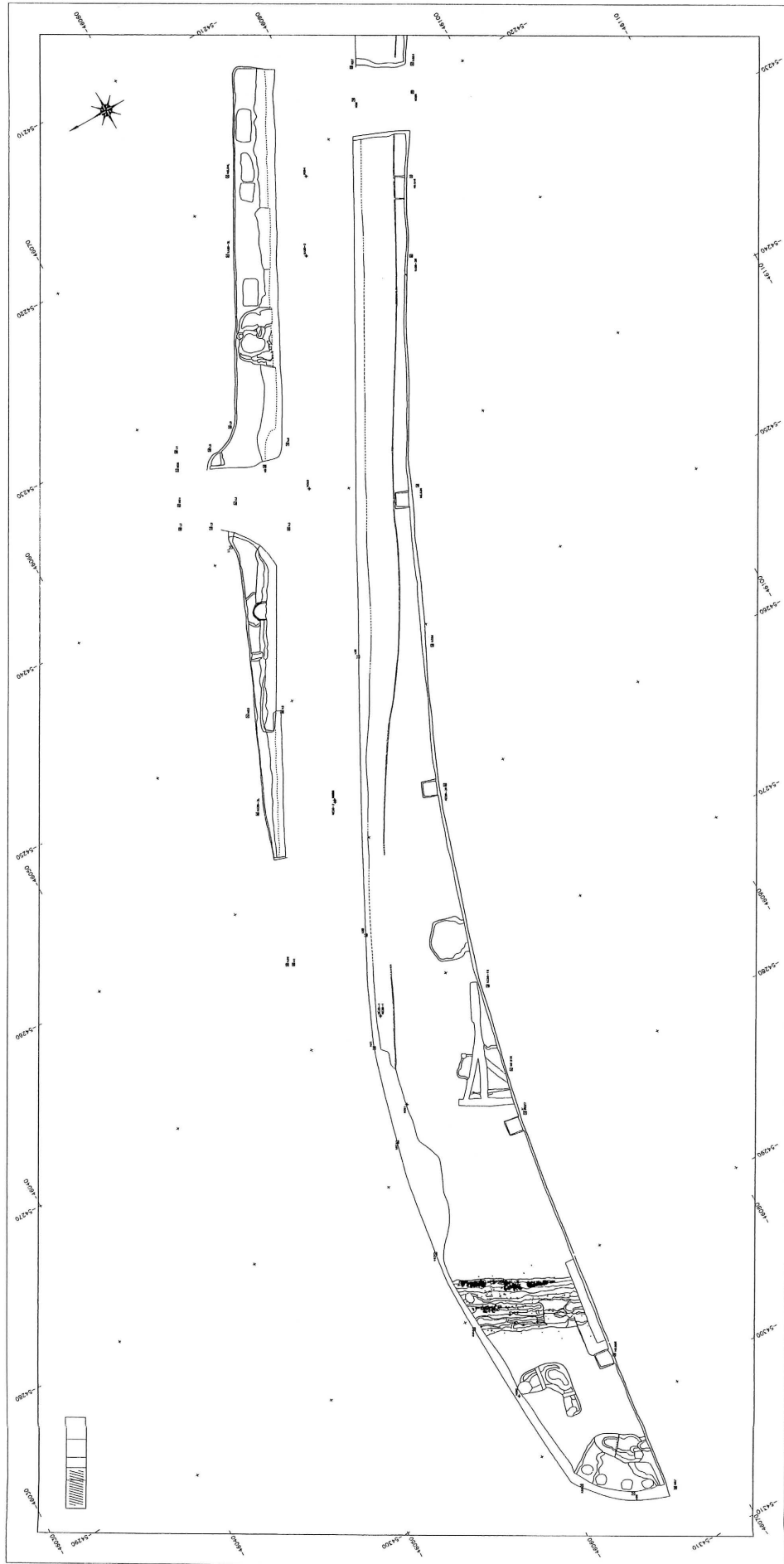




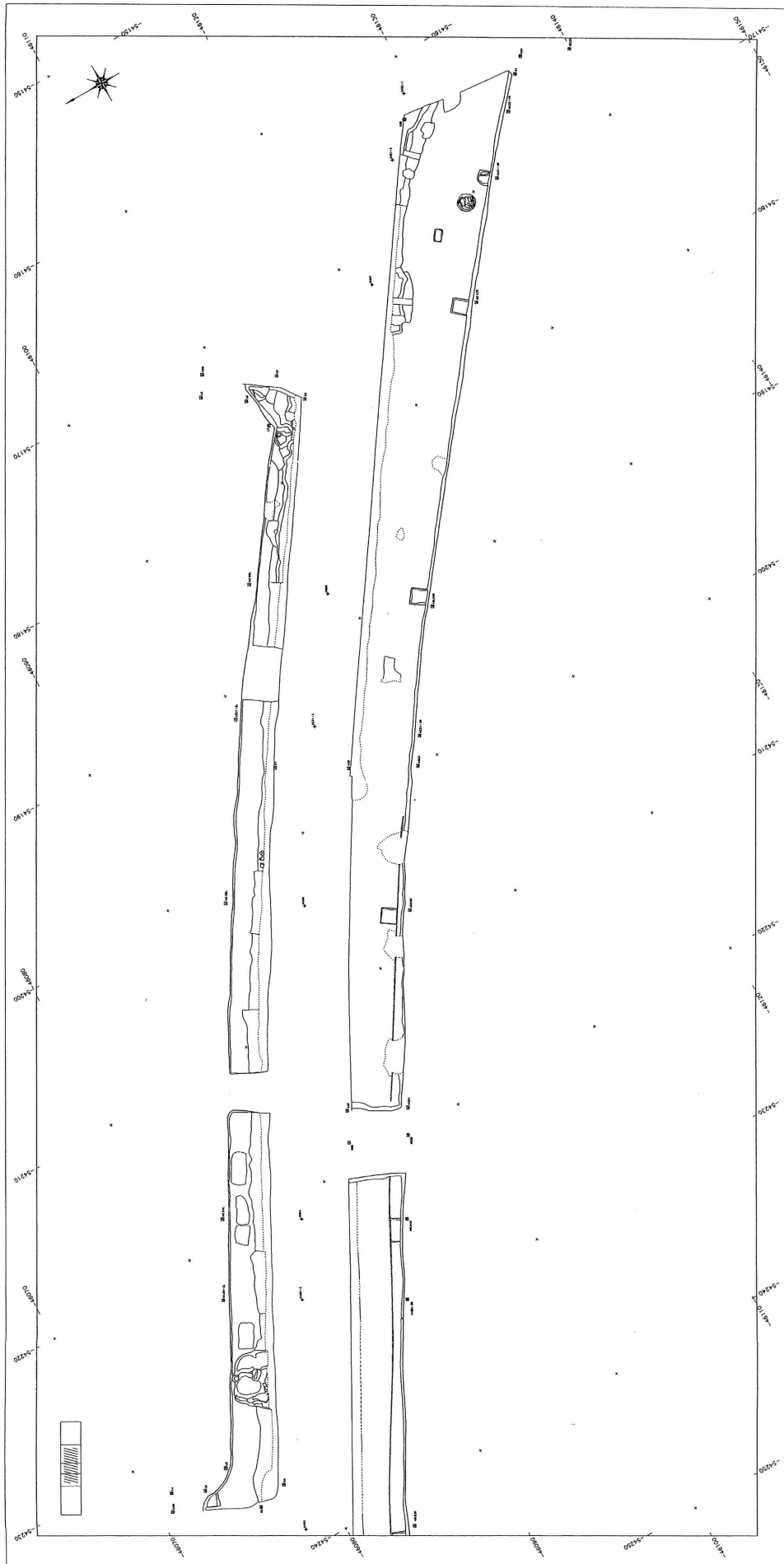


第 11 図 原城跡地形測量図



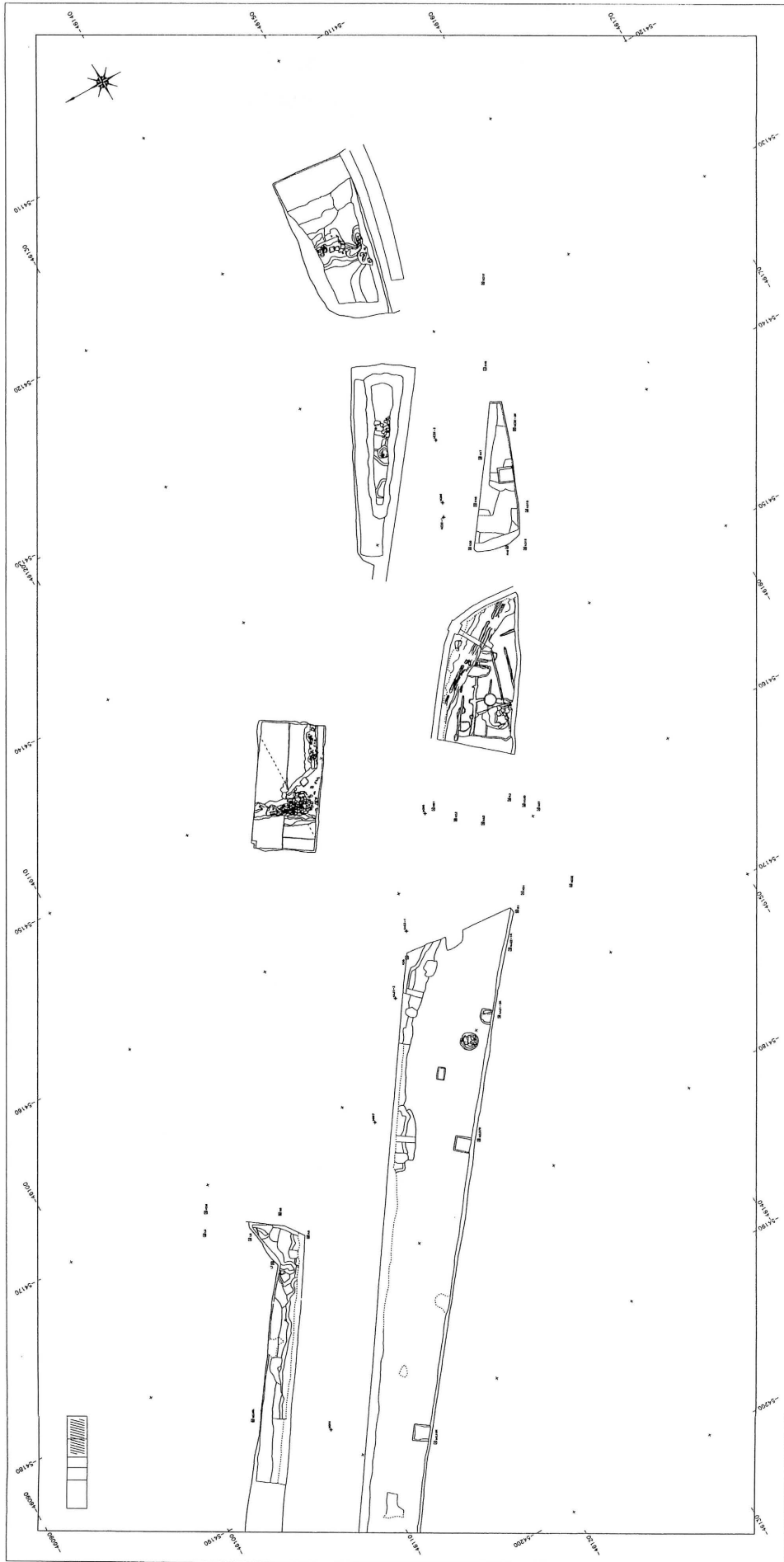


第12図 第I区・第II区-1・2 全体図

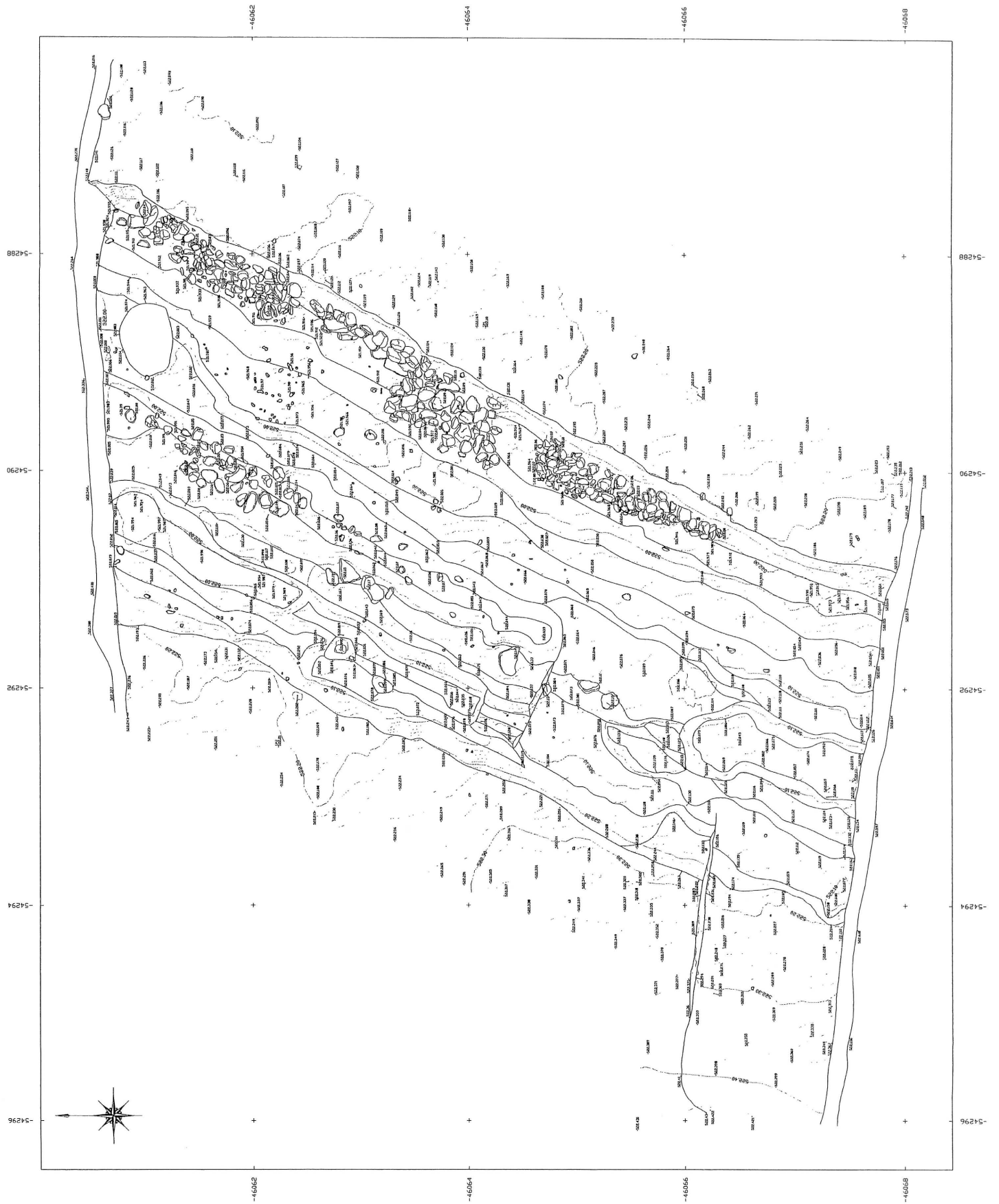


第13图 II区-3·4、III区 全体图



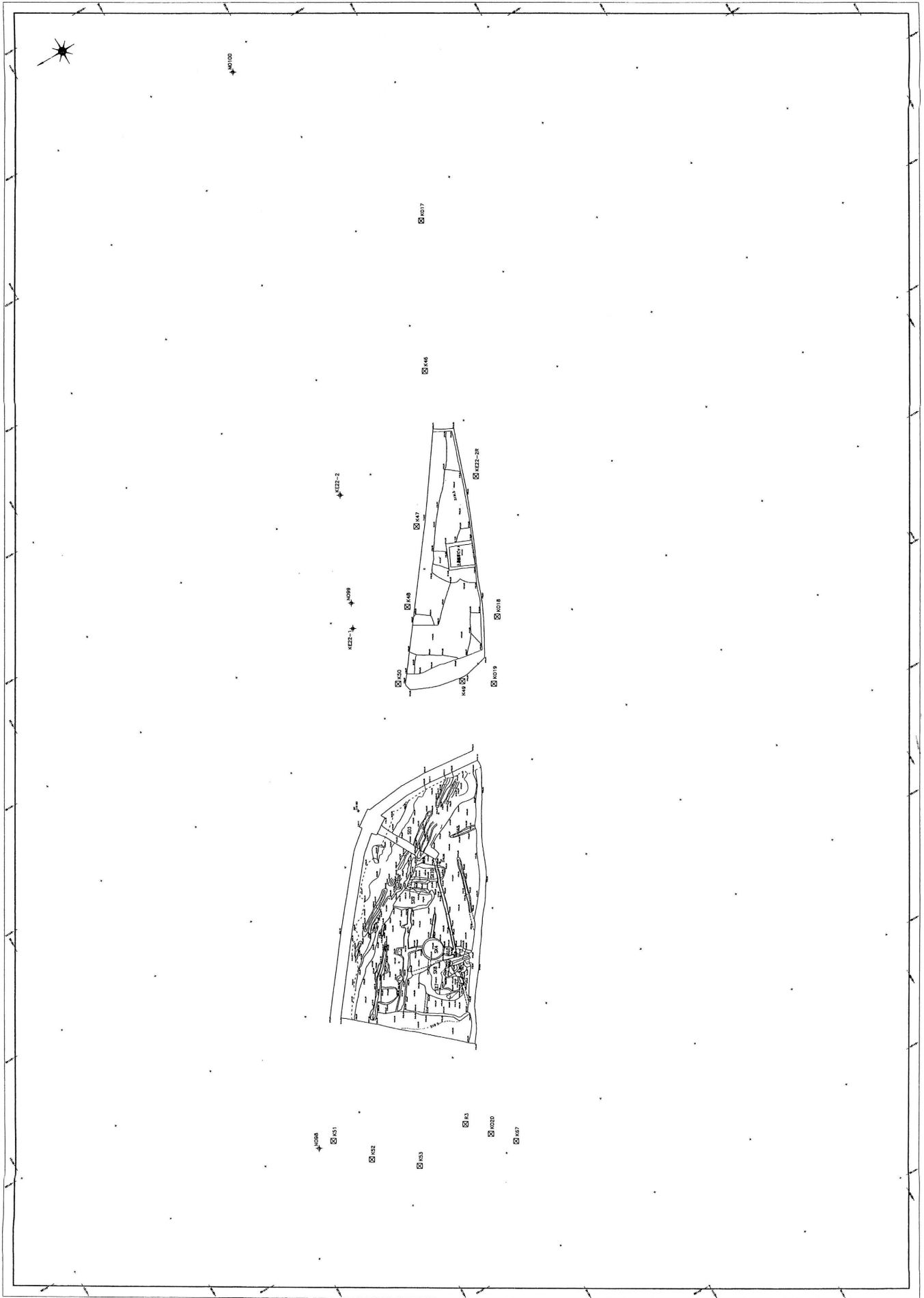


第14图 II区-3、III区、IV区-1·2·3·4·5 全体图

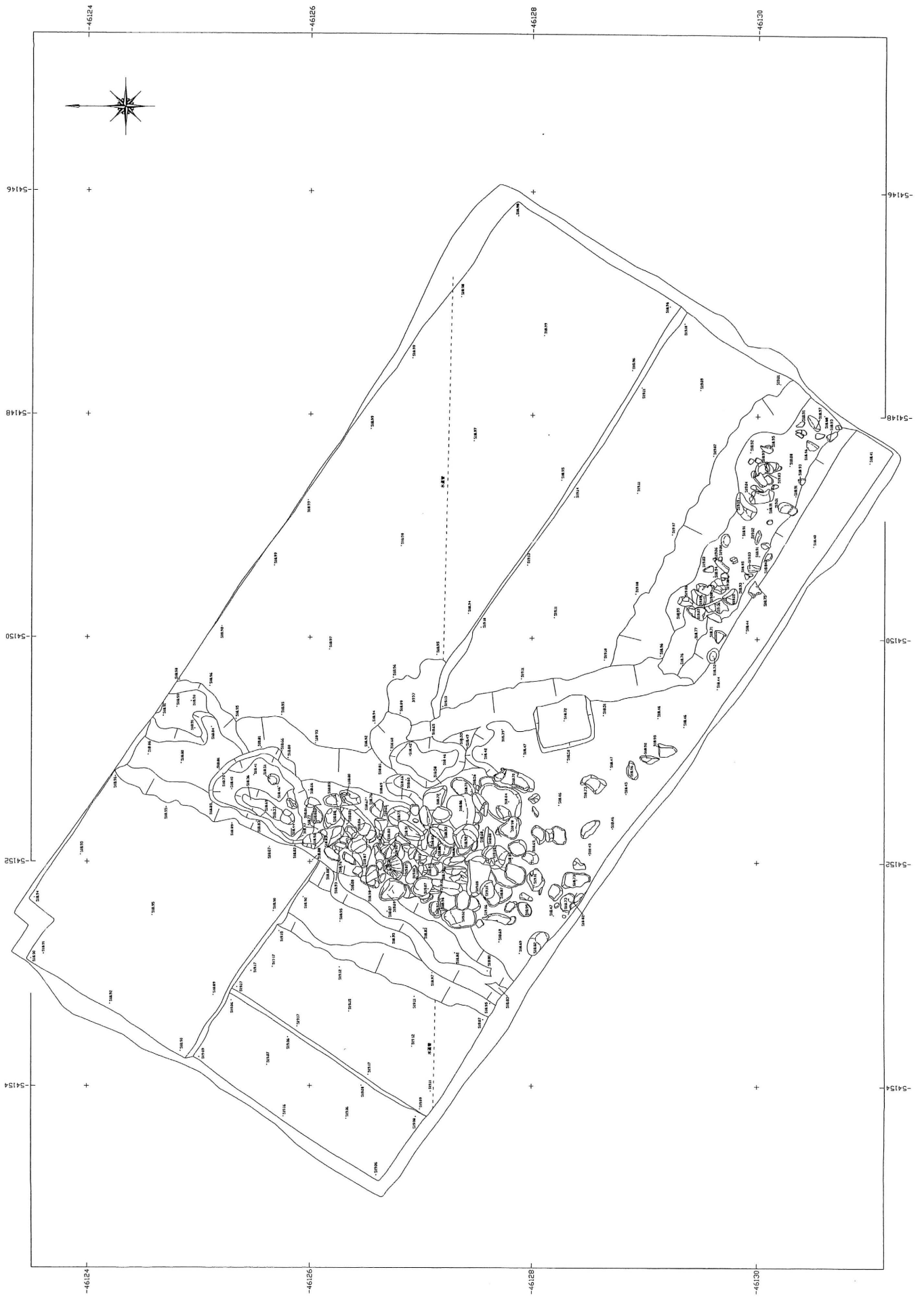


第 15 图 I 区 SS1 平面图



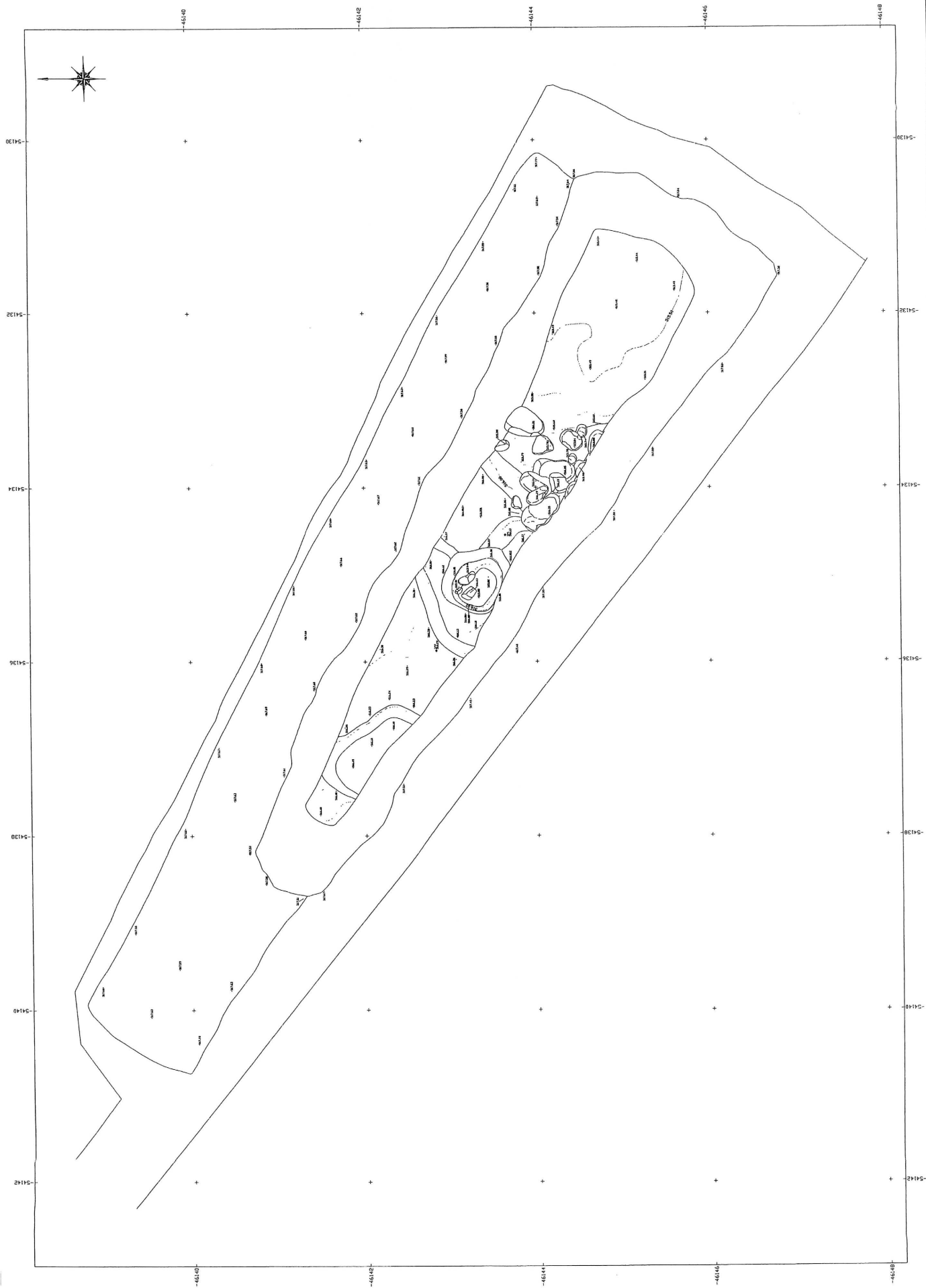


第 16 图 IV 区 - 1 · 2 平面图



第 17 图 IV 区 - 3 平面图

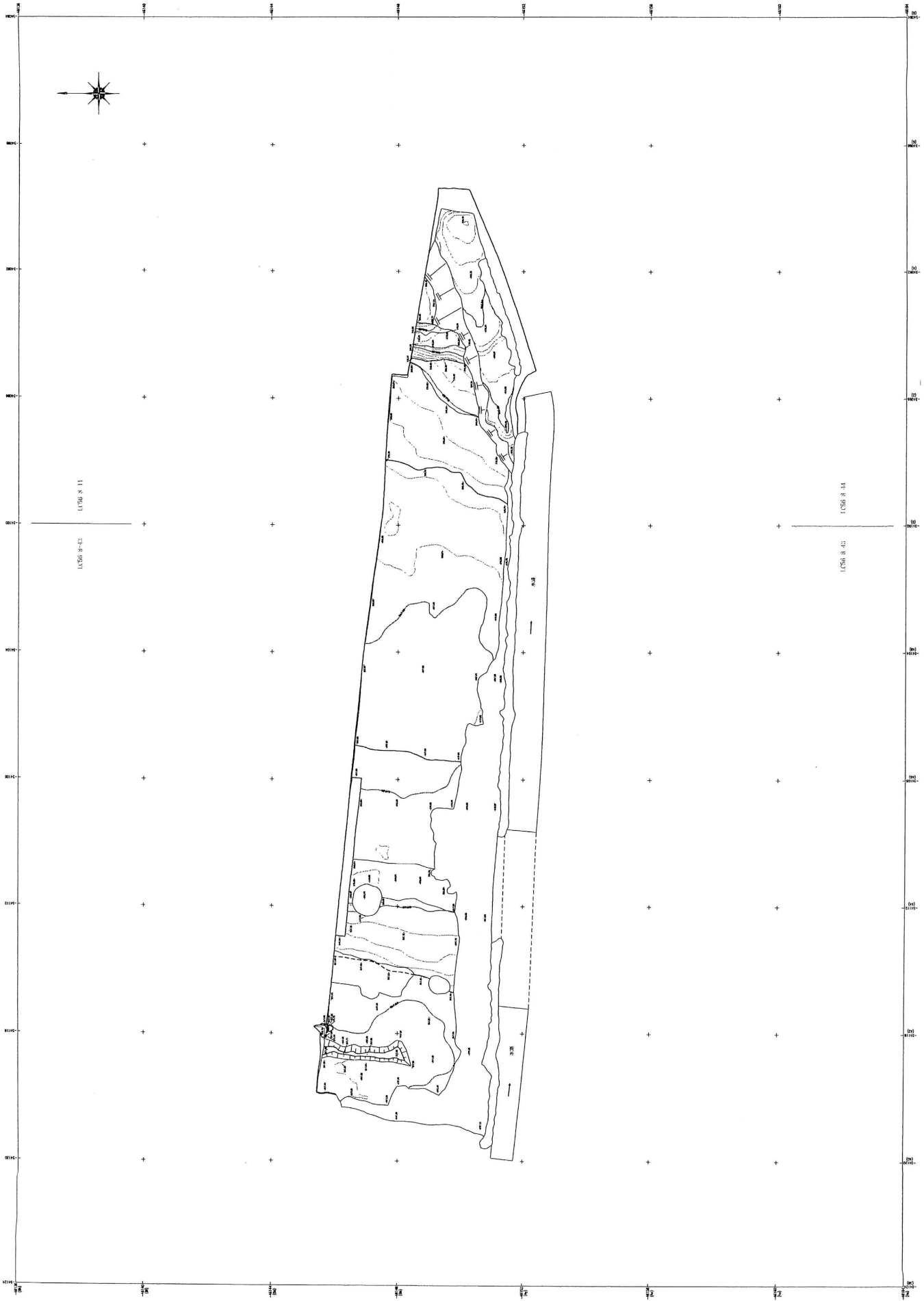




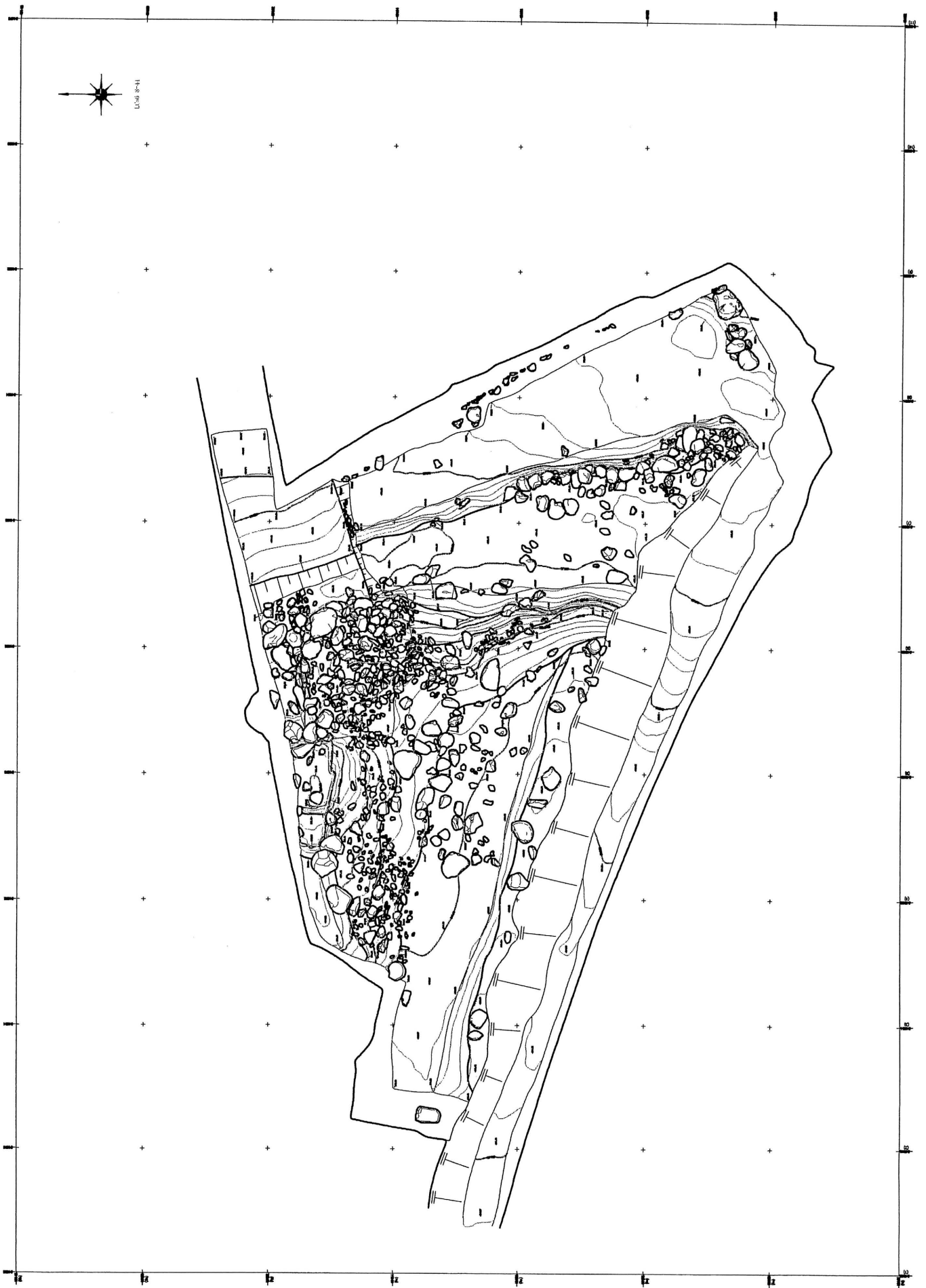
第18图 IV区-4 平面图





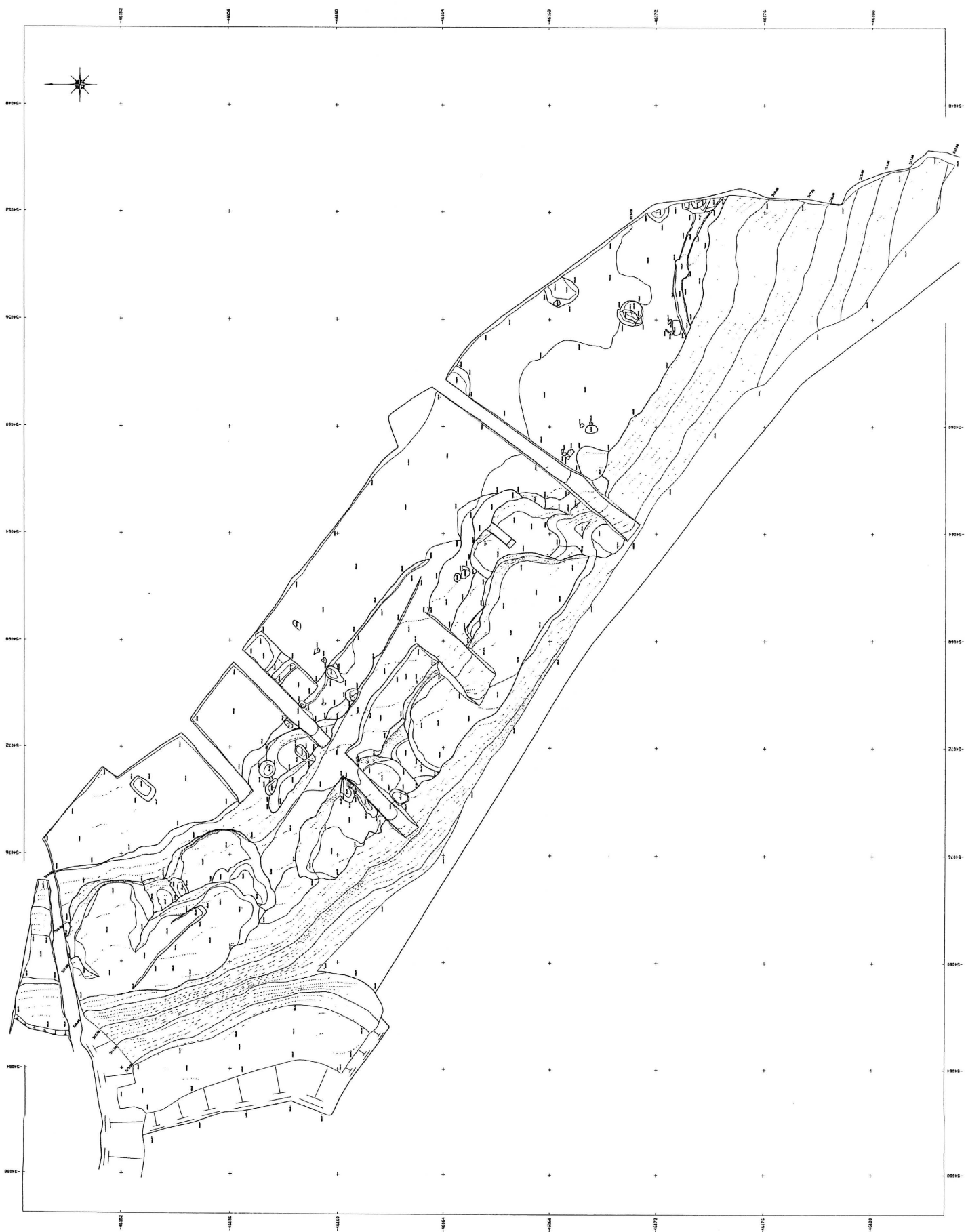


第 20 図 曲輪2 平面図



第 21 图 堀切1 平面图





第 22 図 曲輪1 平面図

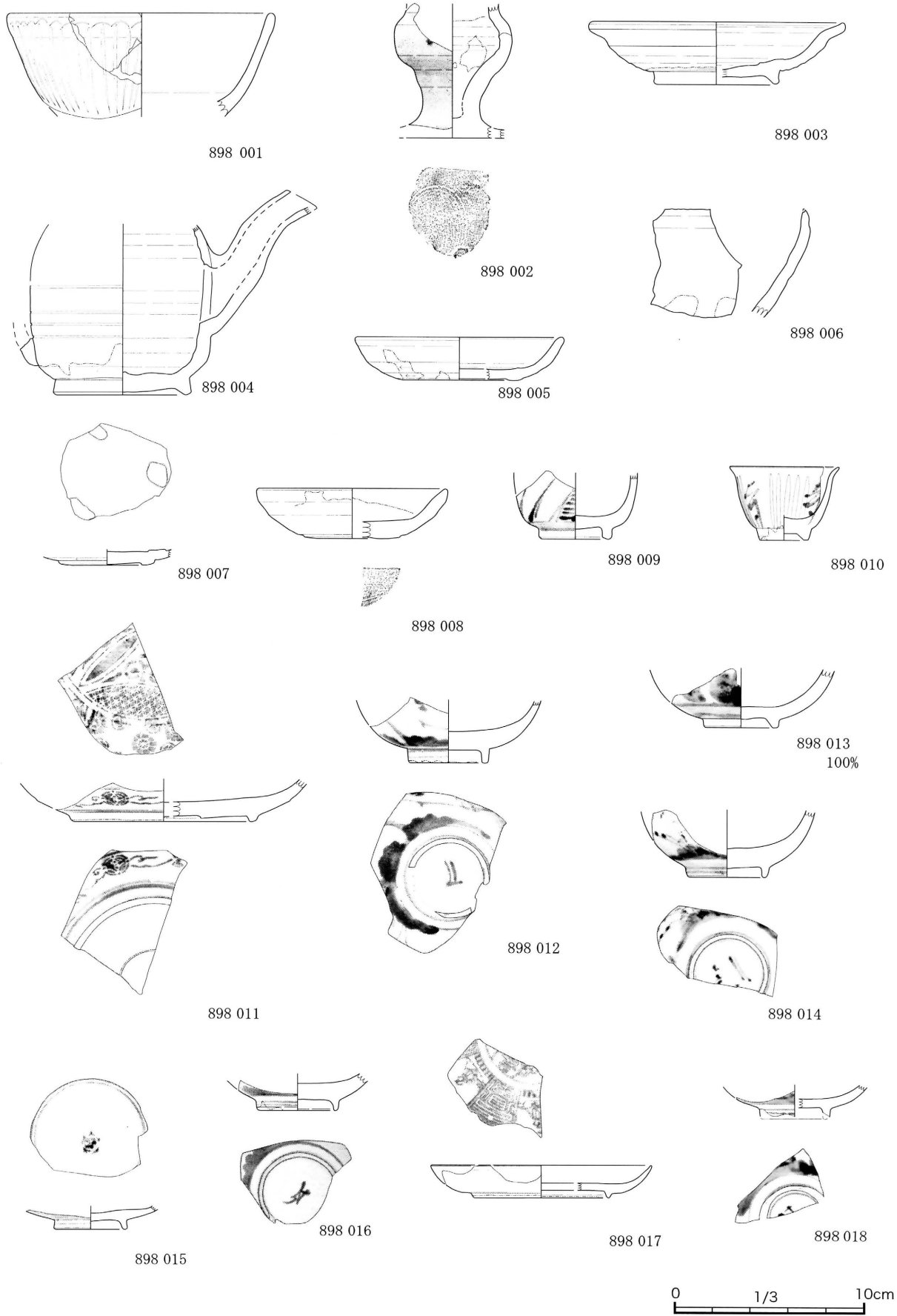
# 焼物土器類観察表

遺物番号	種別	種類	器形	出土地点	質量			残存率	色調(地)	色調(釉)	胎土	焼成	時期	産地	備考
					口径	底径	器高								
1	陶磁器	青磁	連弁紋碗	1 Ar21 I 層 カクラン	(14.0)	—	<5.5>	20%	5Y6/1 灰	10Y5/2 オリーブ灰	緻密	良	15後-16前	龍泉	全体に貫入。
2	陶磁器	陶器	仏花器	IV-4 断面図 溝通1	—	—	<7.1>	30%	2.5Y8/1 灰白	5Y5/3 灰オリーブ	密 微粒の黒色粒子含む	普	17後-18	瀬戸・美濃	外面一部鉄線あり。外面のみ透明釉。貫入。内面・底部無軸。内面に一部鉄線付着。底部回転糸切り
3	陶磁器	陶器	皿	HRJ 曲輪1 SBI	(13.0)	(6.2)	3.25	20%	2.5Y8/2 灰白	7.5YR3/3 暗褐色	密 1mm程の黒色粒子混入	普	16後	瀬戸・美濃	内～外面鉄線。腰部から高台内まで無軸。底部ヘラズリ。見込み輪弁。
4	陶磁器	陶器	水注	IV-4 水路下層	—	7.2	<10.8>	50%	2.5Y8/3 淡黄	外面の釉:7.5YR4/6 褐 内面の釉:7.5YR3/1 黒褐	密	良	17後-18初	瀬戸・美濃	内外鉄軸。わら灰流し掛け。
5	陶磁器	陶器	皿	HRJ VII 層(黒色土) 堀切1 第2版築層中 主郭土取坊4-2	(10.7)	(6.2)	2.3	25%	2.5Y8/3 淡黄	7.5YR4/2 灰褐	1mm程の黒色粒子含む	普	16C	瀬戸・美濃	内～外面鉄軸。腰部から高台内まで無軸。腰部・底部ヘラズリ。
6	陶磁器	陶器	天目茶碗	主郭土取坊4-2	—	—	—	小片	2.5Y7/1 灰白	7.5YR3/2 黒褐 7.5YR2/1 黒	密 微粒の黒色粒子含む	良	16C	瀬戸・美濃	内～外面鉄軸。灰軸流し掛け。腰部から無軸。
7	陶磁器	陶器	碗	主郭 第4-1 レンズ 坑張	—	4.0	<0.8>	残存のみ	2.5Y6/2 灰黄	7.5Y5/2 灰オリーブ	2mm大の石混入	良	16C	瀬戸・美濃	内面透明釉。トナリ痕3カ所あり。外面腰部～底部無軸。外面黒色の付着物あり。
8	陶磁器	陶器	皿	HRN III-4 現水路下層	(10.0)	(5.0)	(3.1)	15%	2.5Y6/2 灰黄	5Y5/3 灰オリーブ	密 微粒の黒色粒子混入	良	16後	瀬戸・美濃	内外口唇部のみ施釉(透明釉)。底部回転糸切り痕。
9	陶磁器	磁器	碗	HRN III-4 現水路下層	—	3.4	<3.6>	20%	5Y8/1 灰白	—	—	焼成不足	19中	瀬戸・美濃	内外透明釉。貫付き無軸。
10	陶磁器	磁器	坏	HRN III-4 現水路下層	5.6	2.5	3.85	50%	7.5Y7/1	—	緻密	良	17中	肥前	内～外面透明釉。高台～高台内無軸。しのぎあり。手書き文字。
11	陶磁器	磁器	皿	HRN III-4 現水路下層	—	(9.8)	<2.2>	底1/4	7.5Y8/1 灰白	—	緻密	良	明治20-末	瀬戸・美濃	内外透明釉。底部蛇目/凹型高台。型紙刷り。
12	陶磁器	磁器	碗	IV-4 水路下	—	4.0	<3.4>	20%	N8/灰白	—	緻密 微粒の黒色粒子含む	良	18C	肥前	内外透明釉。貫付き無軸。くらわんか碗。
13	陶磁器	陶器	碗	IV-4 水路下	—	3.6	<3.1>	20%	2.5Y8/3 淡黄	—	緻密 微粒の黒色粒子含む	弱	18後	瀬戸・美濃	内外透明釉。貫付き無軸。貫入。太白手。
14	陶磁器	磁器	碗	IV-4 水路下	—	4.0	<3.5>	15%	N8/灰白	—	緻密	良	18C	肥前	内外透明釉。貫付き無軸。くらわんか碗。
15	陶磁器	磁器	碗	IV-4 水路下	—	3.6	<1.2>	20%	N8/灰白	—	緻密	良	18後-19初	肥前	内外透明釉。貫付き無軸。筒形碗。
16	陶磁器	磁器	碗	IV-4 水路下	—	4.0	<2.0>	10%	N7/ 灰白	—	緻密	良	18C	肥前	内外透明釉。貫付き無軸。くらわんか碗。
17	陶磁器	磁器	皿	IV-4 水路下	(11.4)	(7.0)	1.8	20%	N8/灰白	—	緻密	良	明治30-大正	瀬戸・美濃	内外透明釉。貫付き無軸。銅版転写。
18	陶磁器	磁器	碗	IV-4 水路下	—	—	<1.55>	15%	N8/灰白	—	緻密	良	17末-18前	肥前	内外透明釉。くらわんか碗。
19	陶磁器	磁器	碗	IV-4 水路下	—	—	—	小片	N8/灰白	—	緻密	良	18C	肥前	内外透明釉。くらわんか碗。
20	陶磁器	磁器	坏	IV-4 水路下	—	—	—	10%	N8/灰白	—	密	良	昭和(戦前)	瀬戸・美濃	高台内に圈線有。ゴム版。
21	陶磁器	陶器	碗	IV-4 水路下	—	(4.0)	<2.0>	15%	2.5Y7/2 灰黄	2.5GY7/1 明オリーブ灰	やや粗 1mm程の石粒含む	良	18後	瀬戸・美濃	内外透明釉。貫付き無軸。全体に貫入。太白手。
22	陶磁器	陶器	碗	IV-4 水路下	(11.8)	—	<4.0>	10%	5Y2/8 灰白	2.5GY7/1 明オリーブ灰	密	良	18中-後	瀬戸・美濃	内外透明釉。全体に貫入。御室碗。
23	陶磁器	陶器	皿	IV-4 水路下	—	6.0	<1.2>	底部のみ	5Y8/2 灰白	7.5Y8/2 灰白	密	良	18後	瀬戸・美濃	内外透明釉。貫付き無軸。全体に貫入。太白手。
24	陶磁器	陶器	合子(蓋)	IV-4 水路下	(10.0)	(9.8)	(1.6)	40%	5Y7/2 灰白	7.5Y6/2 灰オリーブ	密 細かい砂粒含む	良	18後-19前	京都・信楽	内外透明釉。貫入。貫付き無軸。内面に黒色の付着物あり。
25	陶磁器	陶器	皿	IV-4 水路下	(12.8)	5.35	2.5	60%	5Y8/2 灰白	7.5Y7/2 灰白	密	良	17中葉	瀬戸・美濃	内外透明釉。貫入。貫付き無軸。内面に緑色の釉点(一部変色)。
26	陶磁器	陶器	碗	IV-4 水路下	12.4	—	<6.1>	上半～腰1/2	5Y6/1 灰	7.5Y6/2 灰オリーブ	密	良	18前	瀬戸・美濃	内外透明釉。全体に貫入。
27	陶磁器	陶器	碗	IV-4 水路下	(9.8)	3.6	4.8	40%	2.5Y8/4 淡黄	2.5Y7/3 淡黄	密 1～2mmの石粒含む	良	18前-中	京都・信楽	内外透明釉。貫入。高台～高台内無軸。高台～高台内ヘラズリ。
28	陶磁器	陶器	皿	IV-4 水路下	—	6.4	<2.2>	底部のみ残存	5Y8/2 灰白	10Y7/1 灰白	密	良	17前?	瀬戸・美濃	内外透明釉。貫入。内面輪弁。外面腰部～底部無軸。内面重ね焼きの跡あり。
29	陶磁器	陶器	碗	IV-4 水路下	—	3.6	<2.4>	残存のみ	2.5Y7/3 淡黄	7.5Y7/2 灰白	密	良	18前-中	瀬戸・美濃	内外透明釉。貫付き無軸。貫入。
30	陶磁器	陶器	碗	IV-4 水路下	—	4.2	<2.1>	底部のみ残存	7.5Y8/1 灰白	7.5Y7/2 灰白	密	良	18中-後	瀬戸・美濃	内外透明釉。外面高台～貫付き無軸。貫入。
31	陶磁器	陶器	皿	IV-4 水路下	—	5.2	<2.1>	底部のみ残存	5Y8/2 灰白	7.5Y7/2 灰白	密 細かい砂粒含む	良	18C?	瀬戸・美濃	内外透明釉。外面高台～貫付き無軸。貫入。外面底部ヘラズリ。
32	陶磁器	陶器	坏	IV-4 水路下	(7.0)	—	<2.8>	25%	5Y8/2 灰白	5Y7/2 灰白	密	良	18後-19前	瀬戸・美濃	内外透明釉。外面腰部無軸。ヘラズリ。貫入。貫入。
33	陶磁器	陶器	碗	IV-4 水路下	—	5.2	1.9	底部1/2	5Y8/2 灰白	5GY7/1 明オリーブ灰	密	良	18C?	瀬戸・美濃	内外透明釉。外面腰部～底部無軸。貫入。外面底部ヘラズリ。
34	陶磁器	磁器	碗	IV-4 水路下	—	—	—	小片	5Y7/2 灰白	7.5Y7/2 灰白	密	良	18中	瀬戸・美濃	内外透明釉。
35	陶磁器	陶器	瓶	IV-4 水路下	—	(10.2)	<6.4>	底部1/2	2.5Y8/3 淡黄	5Y6/3 オリーブ灰	密	やや甘?	?	瀬戸・美濃	内外ヘラズリ。外面透明釉。貫入。内面～外面底部無軸。輪積み痕残り。
36	陶磁器	陶器	碗	IV-4 水路下	—	5.8	<2.8>	20% 底部完	2.5Y7/3 淡黄	7.5Y7/2 灰白	密 0.5mm程の石	良	18C	瀬戸・美濃	内面～外面透明釉。外面腰部～底部無軸。内面一部に貫入。
37	陶磁器	陶器	徳利?	IV-4 水路下	—	7.4	<3.1>	底部2/3	2.5Y8/3 淡黄	5Y7/3 淡黄	密	やや甘	17前半	瀬戸・美濃	内外透明釉。細かい貫入。貫付き～高台内一部無軸。内面無軸。
38	陶磁器	陶器	碗	IV-4 水路下	—	(7.4)	<2.15>	底部1/2	2.5Y8/3 淡黄	透明釉10Y7/2 灰白	密 1mm程の砂粒含む	良	18後半	瀬戸・美濃	内外透明釉。貫入。目跡2カ所あり。外面鉄軸。腰部～貫付き無軸。
39	陶磁器	陶器	碗	IV-4 水路下	—	6.9	<2.4>	20% 底部のみ	2.5Y8/3 淡黄	—	密 1～2mm大の石粒含む	良	18後半	瀬戸・美濃	内外透明釉。高台～貫付き無軸。目跡2カ所あり。外面腰部ヘラズリ。
40	陶磁器	陶器	碗	IV-4 水路下	—	3.4	1.1	底部のみ	2.5Y8/3 淡黄	10YR3/4 暗褐	密	良	18後半	瀬戸・美濃	内外透明釉。高台～貫付き無軸。
41	陶磁器	陶器	碗	IV-4 水路下	—	4.5	<2.4>	20% 底部50%	5Y8/2 灰白	10YR3/3 暗褐	密	良	18後半	瀬戸・美濃	内外透明釉。高台～貫付き無軸。
42	陶磁器	陶器	捏鉢	IV-4 水路下	(18.4)	—	<7.1>	10%	10YR8/3 淡黄	7.5YR4/3 褐	密	良	19C?	瀬戸・美濃	内外透明釉。腰部以下無軸?
43	陶磁器	陶器	鉢(?)	IV-4 水路下	—	—	<5.4>	小片	2.5Y8/3 淡黄	7.5YR3/3 暗褐	密	良	19C	瀬戸・美濃	内外透明釉。
44	陶磁器	陶器	鉢	IV-4 水路下	—	(11.4)	<1.7>	15%	2.5Y8/4 淡黄	7.5YR4/3 褐	密 砂粒含む	良	18後-19前?	瀬戸・美濃	内外透明釉。内面釉剥き有り。外面～底部ヘラズリ。
45	陶磁器	陶器	香炉	IV-4 水路下	—	(8.0)	<3.3>	底部1/5	2.5Y8/4 淡黄	10YR5/6 黄褐	密 1mm程の砂粒を含む	良	17末-18前	瀬戸・美濃	外面上半部鉄軸施釉。底部ヘラズリ。3足(残存は1足)。
46	陶磁器	陶器	碗	IV-4 水路下	—	3.9	<3.2>	30%	10YR7/2 鈍い黄褐	10YR3/2 黒褐	密 砂粒混入	良	18後	瀬戸・美濃?	内外透明釉(高台内施釉)。高台のみ無軸。
47	陶磁器	陶器	碗	IV-4 水路下	(10.0)	—	<5.7>	15%	2.5Y8/1 灰白	地の釉:7.5YR4/3 褐 模様の釉:7.5YR2/1 黒	密	良	17前	瀬戸・美濃	内外透明釉。灰軸流し。
48	陶磁器	陶器	仏花器	IV-4 水路下	—	—	<4.3>	脚部のみ	2.5Y8/3 淡黄	7.5YR2/2 黒褐	密 黒色粒子含む	良	19C	瀬戸・美濃	外面脚部鉄軸施釉。内面無軸。
49	陶磁器	陶器	碗	IV-4 水路下	—	(3.8)	<1.1>	底部1/4	10YR7/2 鈍い黄褐	10YR4/3 鈍い黄褐～10YR2/1 黒	密	良	18後	瀬戸・美濃	内外透明釉。高台無軸。
50	陶磁器	陶器	徳利?	IV-4 水路下	—	—	<5.0>	小片	7.5Y8/1 灰白	外釉:7.5Y3/1 オリーブ黒・内釉:5YR3/2 暗赤褐	密	良	?	瀬戸・美濃?	内外透明釉。溶着痕あり。
51	陶磁器	陶器	搦鉢	IV-4 水路下	—	—	<1.5>	底部1/2	2.5Y8/3 淡黄	10YR3/3 暗褐	密	良	18-19前	瀬戸・美濃	内外透明釉。外面底部無軸。回転ヘラズリ。
52	陶磁器	陶器	搦鉢	IV-4 水路下	—	(13.0)	<3.8>	底部1/8	2.5Y8/3 淡黄	10YR5/4 鈍い黄褐	密 やや粗 砂粒含む	良	18-19前	瀬戸・美濃	内外透明釉。底部回転糸切り。
53	須恵器	須恵器	皿	HRN I 地区 SX1	—	—	<2.2>	底部1/5	<外面> 7.5Y8/4にふい褐	<内面> 7.5YR6/4にふい橙	密。白色粒子含む	良	前期終末～中期初頭	瀬戸・美濃	内外口唇下に粘土むしりによる添付文。口唇と頸部に半載竹管状工具による刻み。その他半載竹管状工具による平行沈線文。
54	縄文土器	深鉢	SK1												



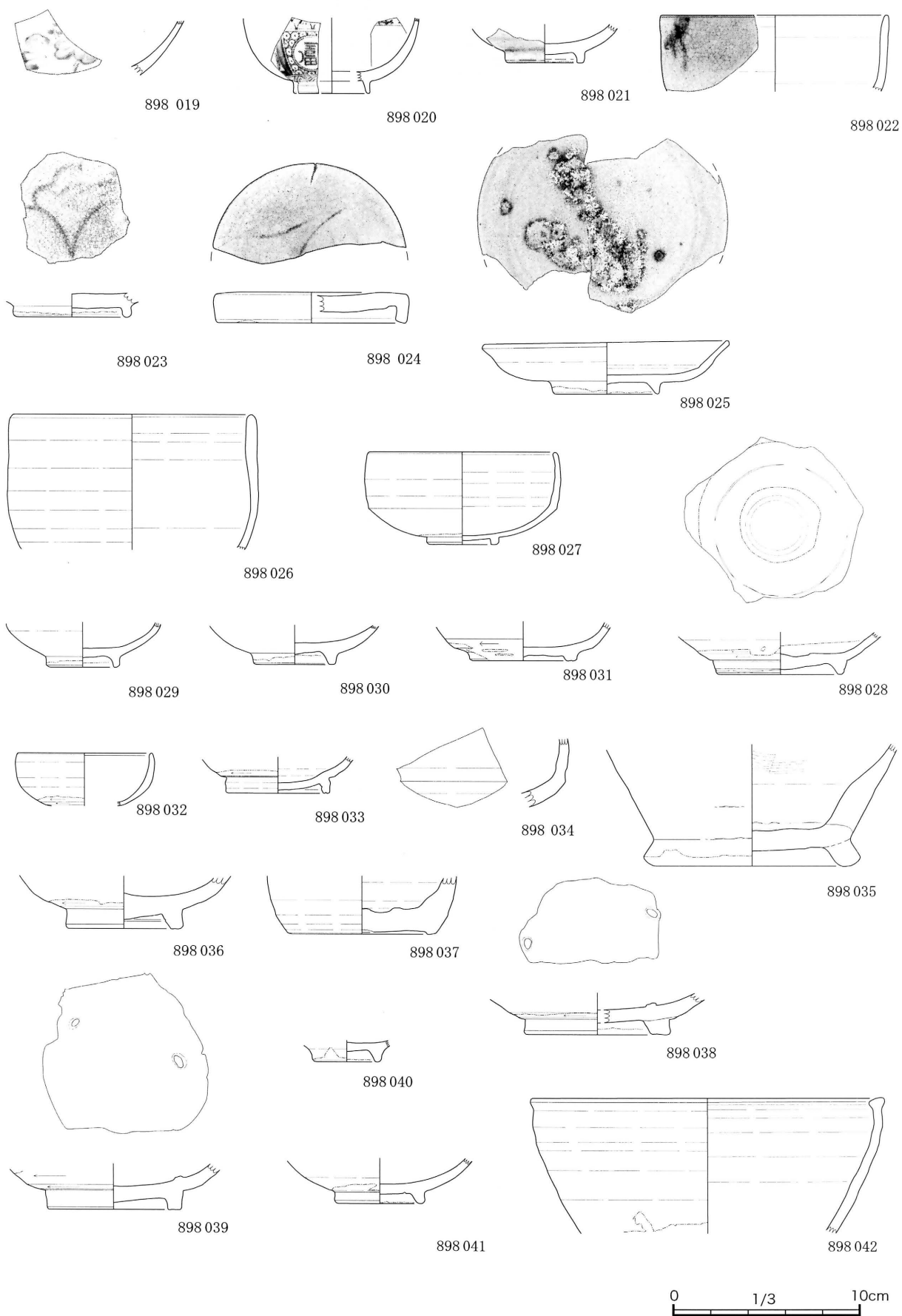
## 石製品・金属製品観察表

遺物番号	種別	器種	出土地点	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	材質	備考
55	石器	打製石斧	HRN I 地区 SX1	87.7	73.6	19.1	142.4	凝灰岩	
56	石器	打製石斧	HRN III-4 現水路下層	74	48	20	85	粘板岩	
57	石器	磨製石斧	HRT IV-3 SD2 礫下	98	65.1	34.6	374.3	角閃岩?	
58	石器	タタキ石	HRN II-2-4	142.2	72.1	34.3	492.3	蛇紋岩	
59	石器	磨製石斧	HRN I 地区 SX1	67.6	50.5	30.6	141.7	砂岩	
60	石器	タタキ石	HRN II-2-3	138.1	42.4	28.8	273	緑色凝灰岩	
61	石器	タタキ石	HRN III-4 現水路下層	79.5	52.6	20.7	126.7	緑色凝灰岩	
62	石器	磨石	HRN SK1 下層	112.7	74	28.4	419.8	緑色凝灰岩	
63	石器	砥石(接合)	IV-3 先行トレ 中区II層	123.2	27.4	27.1	140.7	凝灰岩	未使用面に溝状の加工あり(出荷時の装飾?)
		砥石(接合)	IV-3 先行トレ 東区II層						
64	石器	砥石	HRJ SX8	114.5	31	20	105.3	凝灰岩	未使用面に溝状の加工あり
65	石器	砥石	HRJ IV-1 検出面	54.6	30	14.3	37.2	凝灰岩	未使用面に溝状の加工あり
66	硯		HRJA IV-5 堀 埋土上部	51.6	36	9.5	18.3	?	
67	硯			106.2	73.4	15.2	171.9	黒色頁岩	○福? 裏面に線刻あり
68	古銭		HRJ II 区-1 SK1(カク乱か)	24.5	24.9	0.8	2.9		
69	分銅			35.6	22.4	23.1	62		
70	石臼		HRJ IV-3 SD2 礫群	191.2	188.2	108.6	4793.5		上臼。軸受穴から供給口にかけ、加工と思われる溝あり(用途は不明)

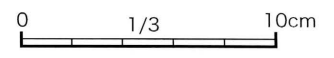
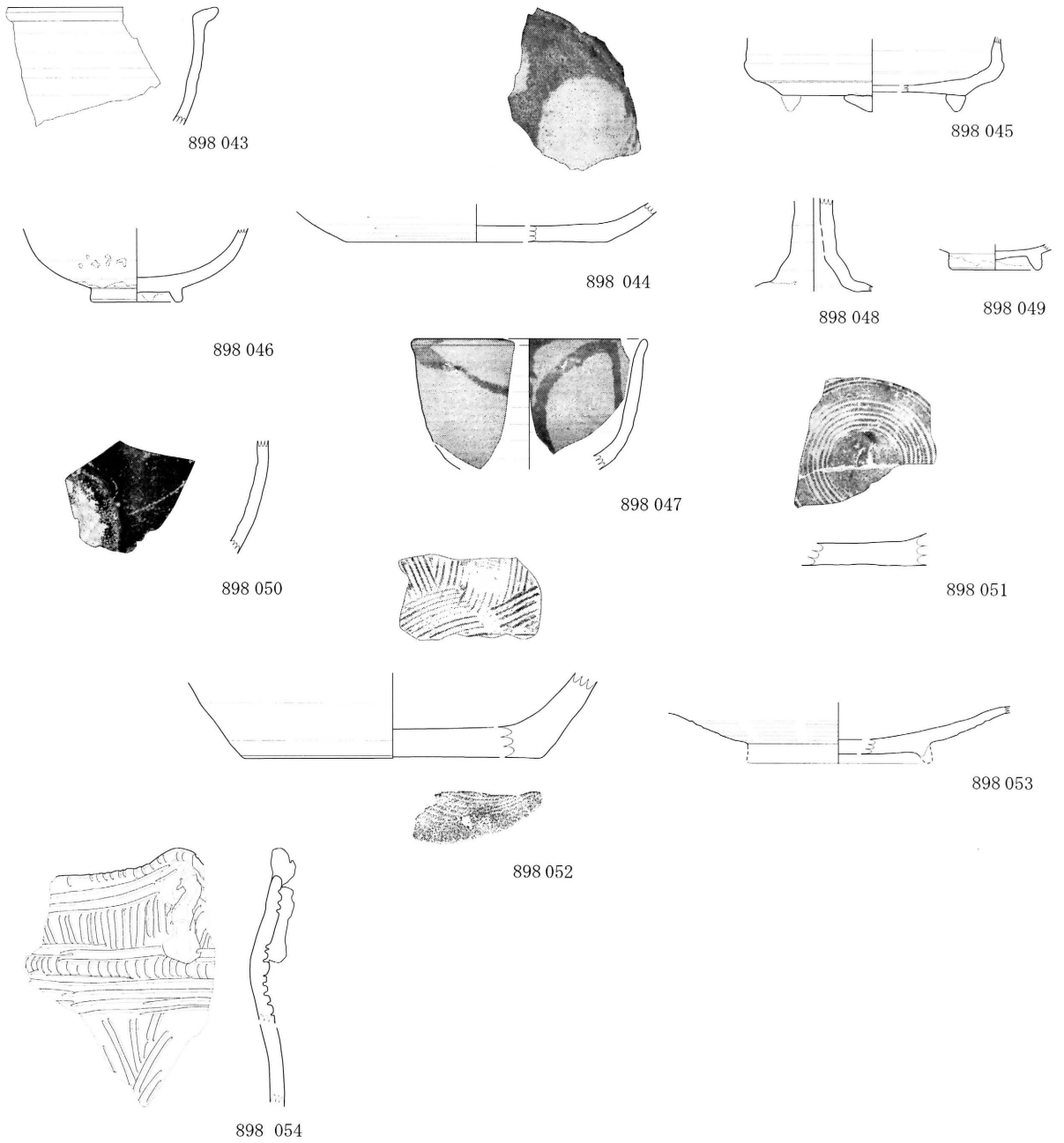


第 23 图 烧物实测图 (1)





第 24 图 烧物实测图 (2)



第 25 図 焼物実測図 (3)・土器

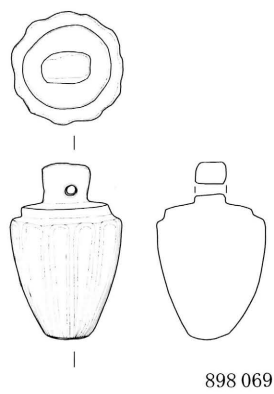




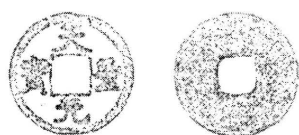
0 1/3 10cm

0 1/4 10cm

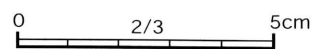
第 26 図 石器・石製品実測図 (1/3・石臼 1/4)



898 069



898 068



第 27 図 金属製品実測図、拓本図 (2/3)

## 第4章 まとめ

当遺跡、城跡における本格的な発掘調査は初の機会となり、当地域における新たな歴史的知見をもたらした。

### 1 中世以前

縄文時代、弥生時代の遺構、遺物が路線内においてわずかに散見された。縄文時代はⅡ-1調査区において中期初頭の土器を伴う貯蔵穴状の土坑を1基調査した。調査箇所周辺（北側）に該期集落の存在が想定される。同じく弥生時代も周辺に集落が想定される。路線内は遺跡の中心から外れている。

### 2 中世

原城城跡は山吹上平段丘の東端、北東から南東側を大沢川の侵食崖に面する段丘の突端部を要害とし、西側の段丘面に空堀を重ねて設け防御施設とする中世（戦国時代）の城跡である。現状観察では、最東端に本城と呼ばれる主郭が設けられ、この主郭を中心とする半円状の空堀を二重に廻らしている。内側の空堀は主郭を取巻き、(一)山吹停車場線の掘割りはこの堀の南側を利用したもので、段丘の上・下を行き来する道となっている。外側の空堀は道路付近では宅地化により明瞭でないが、北側及び南側では明らかに空堀の形状が観察されるので、一連の堀と考えられている。今年度の発掘調査で、この道路付近の不明部分の様相が次のとおり解明された。①現在の中平幹男宅地は空堀を埋立てていること。②現在の道路を挟んで北側と南側では平面形状が異なること、特に外画線は道路付近で極端な折れ曲がりがあり堀幅に大きな変化がみられること。③堀底に複数の段差、平場が認められ、石積み、橋脚と思われる遺構もあり複雑な構造をなしていること等が挙げられる。城の入口がこのあたりにあったという言い伝えもあるが、堀の折れ曲がり等の調査状況から評価すべき伝承といえる。

遺物として、国産陶器、輸入磁器に加え、石臼、銅銭などの城周辺での生活を物語る遺物が発見されている。また、特筆する遺物として銅錘が挙げられる。銅錘は竿ばかりの錘であり綿、薫物（お香）売り等の商人が使用した様子が中世の文献にみられる。全国での出土例は決して多くなく、しかも出土遺跡も都市遺跡に限られている。のことから原城城跡周辺に市のような商人、人々の集まりがあったことが想定される貴重遺物である。

曲輪2は近世以降の屋敷造成で中世面が失われていることがわかる。しかし西側の堀2に接して基底幅5m、上幅3mの高まりを検出した。高まりの東側（曲輪1側）に高まりと平行に5.5mの浅い溝状の窪みを検出した。この高まりを堀2との位置関係関係から土塁の間接的痕跡と判断した。つまり土塁そのものではないが、土塁を構築するため曲輪内側の土の掘削と、反対側の堀2の掘削の結果、地山があたかも土塁状の高まりを呈しているものである。本来の土塁はこの上部に盛土され構築されたものと考えられる



が、高まりの上面幅は土塁の基底幅を示すものと考えてよい。かつて土塁が存在したことを伺い知る貴重な遺構である。

堀1は曲輪1を取り巻き、調査箇所<sup>の</sup>東側、南側で顕著な堀形をみせ、南側では現道が堀底を通過し段丘の上下を連絡する堀底道となっている。堀の末端はいずれも堅堀となり段丘斜面を降って大沢川に達している。調査箇所周辺は現道による破壊と、耕作地化による埋立てにより両側に比べ浅くなっており判然としないが、今回の発掘調査により形状が一部あきらかにされた。堀幅は曲輪2側において堀肩を検出し、曲輪1側のトレンチによって確認した堀肩との距離は約20mを測る。深さは曲輪1との比高6.5m、現状の曲輪2との比高3.8mを測る。曲輪2は削平されたことが判明している<sup>ので</sup>本来は1m程度加わると考える。堀内部の大きな特徴として次の2点をあげる。一つは土橋と考えられる遺構があること、もう一つは堀底部に通路があることである。両者は構造上関連性があるので一括説明する。土橋は曲輪2側から曲輪1に向かい堀中ほどまで突出するもので、地山の礫層を堀り残して構築されている。調査区内では突出部13m、最大幅3mを検出したが、現道の掘り込みや、排水路の掘り込みにより破壊が著しく全貌は不明である。現状で見たところ断面はかまぼこ型を呈している。土橋先端は堀の方向に平行し幅広い。先端部の下にやはり堀方向に伸びる幅1.5～1mの通路があり、構造上堀底より一段高く堀底部側に粗雑な石積みを伴っている。土橋は曲輪2に連結しない構造のため曲輪1側へは木橋を架けて通路をまたいで連絡したものと想定されるが、後には土橋上面レベルまで埋立てた形跡が見られる。城跡解明の最も重要な遺構の一つである。

堀切1は曲輪1を取り巻き、調査箇所<sup>の</sup>北側、南側で顕著な堀形をみせ、南側では現道（山吹停車場線）が堀底を利用して構築されている。堀の末端は両側とも堅堀となって段丘斜面を降って大沢川に達している。調査箇所周辺は現道による破壊と、耕作地化による埋立てにより両側に比べ浅くなっており判然としなかったが、今回の発掘調査により形状が明らかになった。堀幅は、曲輪2で検出した堀肩と、曲輪1側で確認した堀肩との距離20mを測る。深さは曲輪1との比高6.5m、現状の曲輪2との比高3.8mを測る。曲輪2は削平されたことが判明している<sup>ので</sup>本来は1m程度加わると考える。

曲輪1側の堀斜面は、底部からの比高3.5mまでの下半部においては急角度で掘り込まれる。いっぽう上半部は比較的緩やかである。昨年度調査した土橋状遺構に対応するものは検出されなかった。

曲輪1の西側から南西側斜面の上半部は、近代の土取り坑により原型を留めていない。この土取りは壁土用にローム層（赤土）を採取したものと考えられ、採掘の伴う残土処理のため堀切が埋められた事がわかった。南西側斜面中央部よりやや南側に下部からの登り口状の掘り込みがある。掘り込み底部には階段状の小段が設けられている。当町牛牧の<sup>大</sup>下砦跡主郭で検出した登り口に良く似ている。南側斜面の一部が用地内にかかる。現道の影響が少なく切岸斜面が良好に残存していた。崩落の可能性も否定できないが浅い堅堀が存在する。

曲輪 1 内部では調査区南側部分において土坑、溝跡を発見した。土坑の性格を明らかにするものは乏しいが、土坑 4 (SK4) 埋土から青磁連弁文碗の大型破片が出土している。

堀切 1 の形状 曲輪 1 の西側及び南西側斜面の下部は現道工事、上部は近代の土取りにより破壊され保存状態が悪かった。南側斜面は切岸が良好な状態で残っていた。曲輪 1 内部は部分的に遺構が見られたが一部の調査であるため全貌は不詳である。しかし、青磁碗の出土等、城跡の年代を示す大きな手がかりが得られたことは大きな成果といえる。

## 引用・参考文献

- 松島信幸 1995年『伊那谷の造地形史』
- 松島信幸・岡田篤正 1993年『伊那谷構造盆地の活断層と南アルプスの中央構造線  
社団法人 中部建設協会 1984年『天竜川上流域地質解説書』
- 高森町史刊行会 1972年『高森町史 上巻』
- 下伊那誌編纂会 1972年『下伊那史 第六巻』
- 長野県 1941年『史蹟名勝天然記念物調査報告 第二十二号』  
「信陽城主得替記」  
「伊那温知集」  
「松岡城址」『下伊那郡誌資料 第四集』
- 唐澤貞治郎（編） 『上伊那郡史』
- 高森町教育委員会 1995年『高森町埋蔵文化財発掘調査報告書第11集 松岡城跡』
- 高森町教育委員会 2006年『高森町埋蔵文化財発掘調査報告書第22集 山吹新田原  
遺跡・追分遺跡・千早原遺跡・牛牧新田原遺跡・鐘鑄原A遺跡・中平遺跡』
- 宮坂武男 1999年『図解 山城探訪第七集 下伊那資料編』
- 高橋将人 1996年『定本 伊那谷の城』
- 飯田市上郷考古館 2009年『南信州の山城 一戦国に生きた人びと一』
- 長野県埋蔵文化財センター 2012年『長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書  
国道474号（飯喬道路）埋蔵文化財発掘調査報告書5  
井戸端遺跡 下村遺跡（鶯ヶ城跡） 芦ノ口遺跡』
- 飯田市教育委員会 2003年『北本城々跡 北本城古墳』
- 飯田市教育委員会 2009年『鈴岡城址』
- 下伊那誌編纂会 1991年『下伊那史 第一巻』
- 長野県史刊行会 1988年『長野県史 考古資料編 全1巻（4）遺構・遺物』
- 小林達雄・小川忠博 1988年『縄文土器大観 2 中期I』
- 愛知県 2007年『愛知県史 別編 窯業2 中世・近世 瀬戸』
- 上田秀夫 1982年「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究No.2』
- 国立歴史民俗博物館 1994年『国立歴史民俗博物館博物館資料調査報告書5  
日本出土の貿易陶磁 東日本編1』





1 豊丘村河野から



2 高森町山吹駒場から





1 大沢川下流側から



2 南方の城から



PL - 3 工事着工前の道路状況 (起点側から順に終点へ)



1 起点



5 No. 97



2 No. 91



6 No. 98



3 No. 93



7 No. 99



4 No. 95



8 No. 100





1 終点



5 No.9 9



2 No.1 0 2



6 No.9 8



3 K A 2 3 - 1



7 No.9 6



4 No.1 0 0



8 No.9 3





1 原城跡  
曲輪 2 から主郭



2 同上



3 堀切 1 付近





1 堀切 1 付近



2 堀切 1 付近



3 堀切 1 付近





1 主郭 道路側



2 主郭 道路側



3 主郭 道路側





1 主郭 道路側



2 主郭 道路側



3 主郭と現道





1 主郭 拡幅用地北部



2 主郭 拡幅用地南部



3 主郭 南部切岸





1 主郭 曲輪内部



2 同上



3 堀切1と曲輪2





1 曲輪 2



2 第Ⅳ区－3  
貯水槽新設箇所



3 同上





1 SX 1



2 SX 1



3 SX 1





1 SX4



2 SX5





1 SS 1



2 SS 1



3 SS 1





1 SS1 断面



3 SK2



2 SK3





1 SD 2



2 SD 2



3 SD 2  
遺物（石臼）出土状況





1 全景（西側から）



2 土塁基底部と土塁延長方向



3 土塁基底部  
（直交方向から）





1 土塁基底部と溝跡



2 全景（南側から）



3 堀切1 肩部





1 全景（南側から）



2 全景（東側から）



3 全景（西側から）

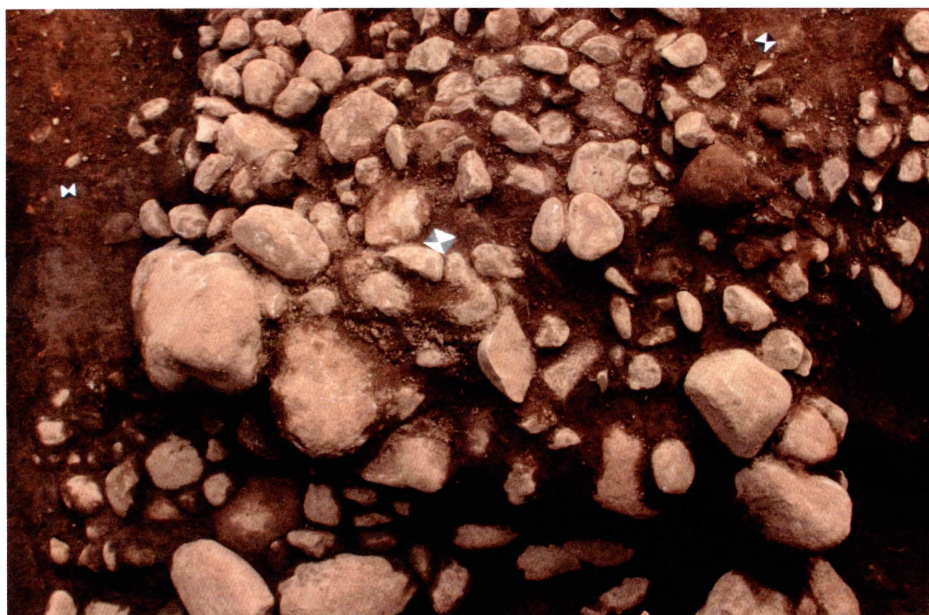




1 土橋状遺構



2 土橋状遺構の張出し部



3 同





1 通路（南側から）



2 同（北側から）



3 通路石積み





1 通路（南側から）



2 石積み細部

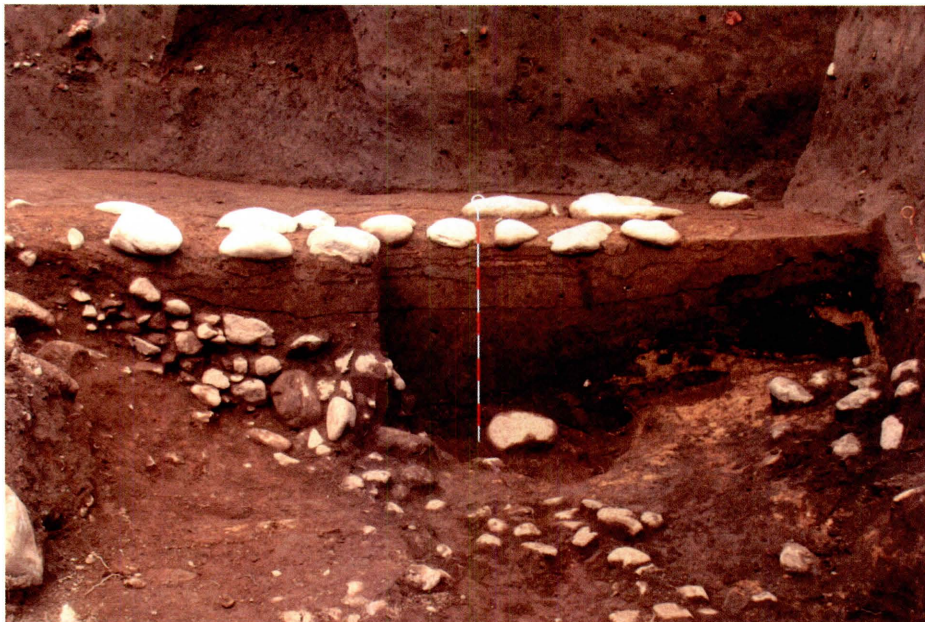


3 造成面1

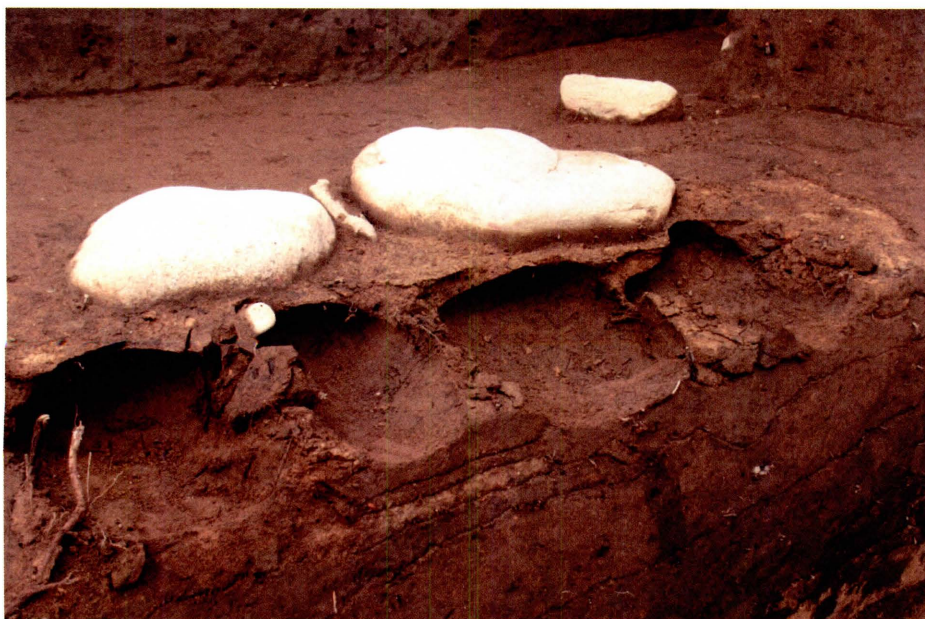




1 造成面1 石敷き



2 同 断面

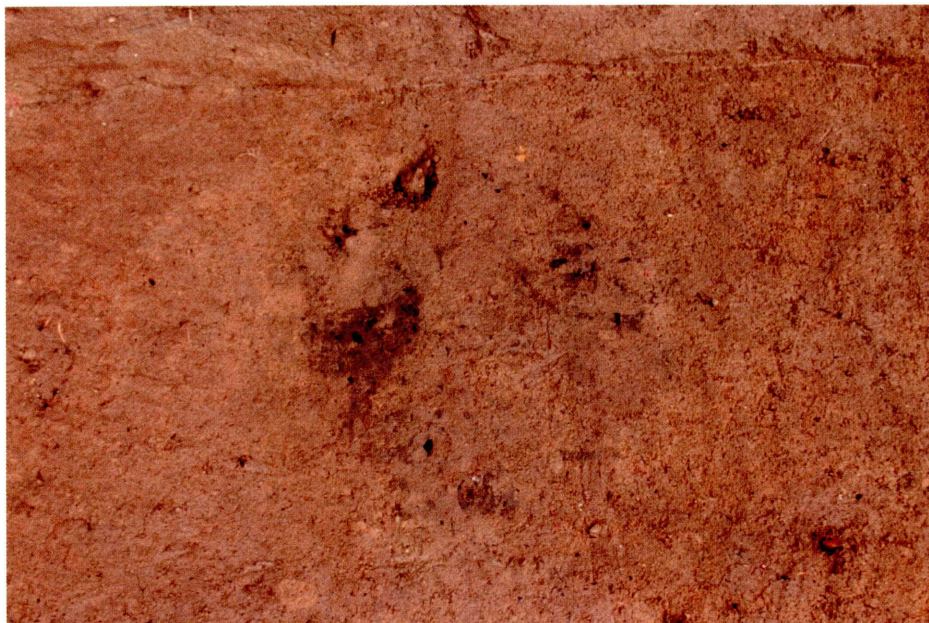


3 石敷きの取外し

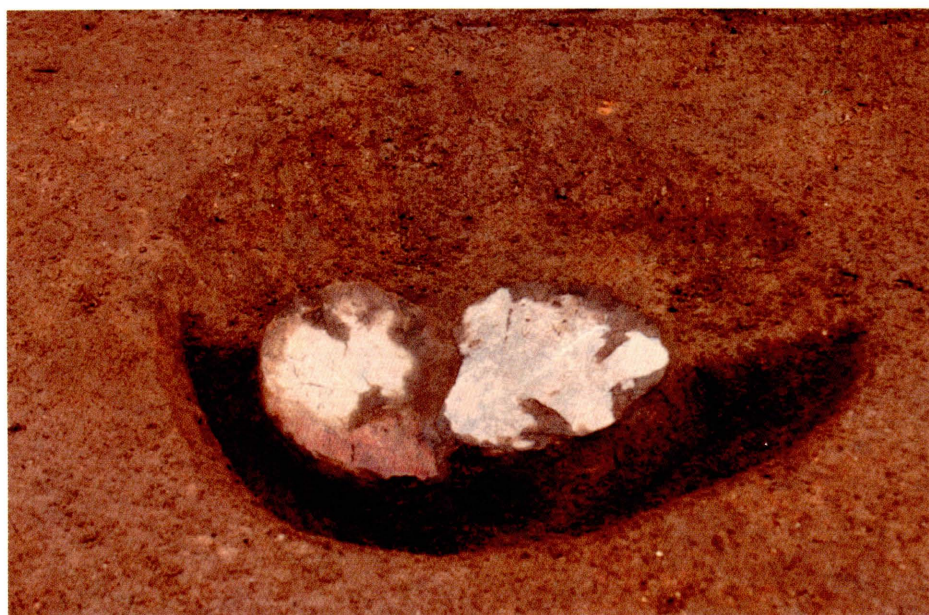




1 造成面1土坑



2 同 検出状況

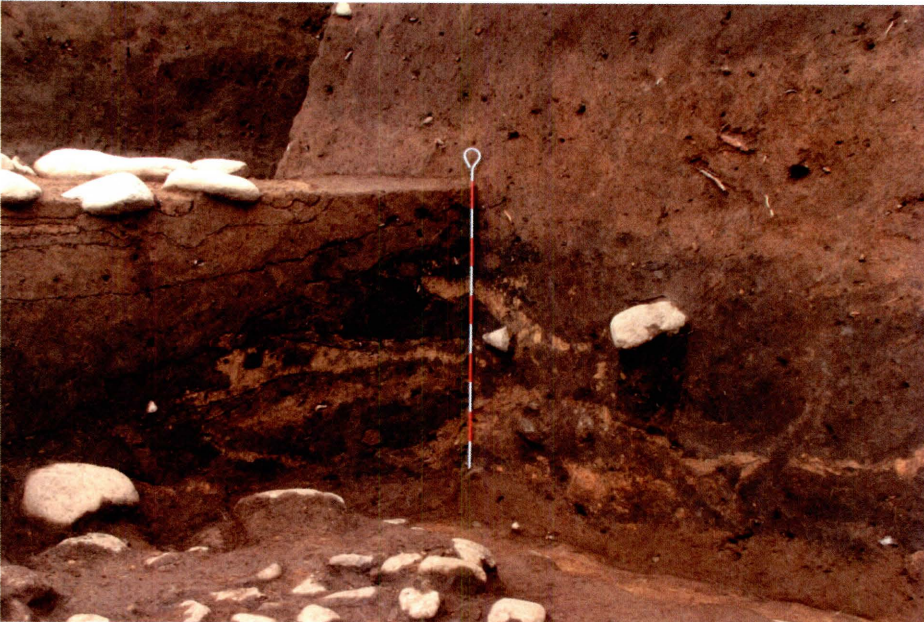


3 同 掘下げ状況





1 造成土 1 断面



2 同 細部





1 造成面 2 礫敷き



2 同



3 埋土断面





1 埋土断面 曲輪1側



2 全景（西側から）



3 堀切1と現道





1 切岸



2 切岸と現道



3 切岸上部





1 土坑 1



2 土坑 2



3 土坑 3





1 土坑 4



2 溝跡





1 テラス状遺構



2 同



3 土採掘坑





1 土採掘坑



2 同



3 同



高森町埋蔵文化財発掘調査報告書第 28 集

県単道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務委託

(一) 山吹(停)線 下伊那郡高森町原城

## 発掘調査報告書

### 原城遺跡

### 原城跡

発行 平成 24 年(2012 年) 3 月 18 日

発行者 長野県飯田建設事務所

高森町教育委員会

〒399-3103

長野県下伊那郡高森町下市田 2183-1

TEL 0265-35-8211

FAX 0265-35-2973

E-mail [kyouiku@town.takamori.nagano.jp](mailto:kyouiku@town.takamori.nagano.jp)

印刷 龍共印刷株式会社

飯田市上郷黒田 121

TEL 0265-22-5353

